

2021年度(令和3年度)

# 事業報告書

(自) 2021年 4月 1日

(至) 2022年 3月31日

社会福祉法人 世田谷ボランティア協会

## 目 次

I. はじめに	1 P
II. ボランティア・市民活動推進事業 総括	2 P
1. ボランティアコーディネート事業	3 P
2. ボランティア情報ネットワーク事業	5 P
3. ボランティア学習事業	7 P
4. 地域連携促進事業	9 P
5. パートナリシップ事業	10 P
6. コミュニティ・ビジネス事業	11 P
7. ボランティアビューローでの事業	12 P
(1) 梅丘ボランティアビューロー事業	12 P
(2) 代田ボランティアビューロー事業	13 P
(3) 玉川ボランティアビューロー事業	15 P
(4) 砧ボランティアビューロー準備室事業	19 P
8. せたがや災害ボランティアセンター事業	21 P
9. せたがやチャイルドライン事業	25 P
III. 福祉事業 総括	28 P
1. ケアセンターふらっと	29 P
(障害者総合支援法 生活介護事業・自立訓練事業 ・高次脳機能障害者支援促進事業・特定相談支援事業)	
2. ケアセンターwith	31 P
(介護保険 通所介護事業)	
3. ケアステーション連	33 P
(①介護保険 訪問介護事業、②障害者総合支援法 居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援事業、 ③自由契約による事業)	
4. ケア相談センター結	34 P
(介護保険 居宅介護支援事業 認知証当事者の ための社会参加プログラム開発研究事業)	
5. 地域障害者相談支援センターぽーとせたがや	36 P
(障害者総合支援法 地域生活支援事業)	
6. 新規事業プロジェクト	38 P
福祉事業部 実績報告<データ・資料編>	40 P
IV. 組織推進事業 総括	46 P
組織運営・事務局運営・財務運営	
組織運営体制図	53 P

# 2021年度事業報告

## I. はじめに

世田谷ボランティア協会（以下「協会」）は、より透明性の高い法人運営を行うとともに、中期計画に定めた目標の実現に向けて取組みを進めた。また、「ボランティアなコミュニティの創造」を掲げる協会の使命の実現に向け、コンプライアンス体制を確立した組織運営や地域社会の課題に対応した事業活動を実施した。

2021年は、協会の設立から40年を迎える節目の年として、情報誌「セボネ」や協会ホームページに特集をくみ、協会設立までの経緯や活動を振り返るとともに今後の活動に向けて、新型コロナウイルス感染症が拡大するなかでも協会のアピールに努めた。

一方、新型コロナウイルス感染拡大は協会事業に大きな影響を及ぼし、感染防止の観点から、対面での交流や三密回避等により制限が課せられ、イベントをはじめ会議室の利用、通所施設利用等において当初の計画通りに取組みを進めることが難しい状況となった。そのような状況にあっても、消毒やオンラインの活用等感染対策を徹底し、実施手法を工夫しながら可能な範囲で取組みを進めてきた。

ボランティア・市民活動推進事業部では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの交流事業が中止となったが、オンラインを活用し可能な範囲で事業を実施した。せたがやチャイルドラインでは、2020年9月から運用を開始したオンラインチャットによる相談を継続しチャット報告会を実施した。災害ボランティアセンターでは、オンラインによる災害ボランティア養成講座や活動マニュアル（水害編）等により学習の機会を提供し災害ボランティアの育成に努めた。

福祉事業部においても新型コロナウイルス感染症対策として利用者だけでなく家族、支援者への感染対応とワクチン接種やスクリーニング検査、感染対策巡回指導等積極的に対応し事業を継続するとともに新規利用者を受け入れた。

組織推進部においては、社会福祉法人改革の精神に根ざした、より自律的かつ透明性をもった法人運営に向けて職場環境の整備を重点課題と捉え労務面での環境整備を進めた。また、新型コロナウイルス感染対策については、協会が一丸となって具体的な対応に取り組んだ。

## Ⅱ. ボランティア・市民活動推進事業

新型コロナウイルス感染症が大きく影響し多くの事業が中止となる状況下にあっても感染防止対策を徹底し、オンラインを活用する等可能な範囲で事業を実施した。

また、情報誌やビューローだよりの発行、WEBを活用した情報発信、おたがいさま BANK を活用した活動情報提供等の情報発信に努めた。せたがやチャイルドラインではオンラインチャットによる相談を継続しチャット&ワークショップ報告会を実施した。災害ボランティアセンターでは、オンラインによる養成講座の実施や活動マニュアル（水害編）を活用した学習の機会の提供により災害ボランティアの育成に努めた。

### [重点目標に対する取り組みについて]

#### (1) ボランティア体験

中学生や大学生等が夏休みに福祉施設等でボランティアを体験するためのプログラム（通称、ナツボラ）は、新型コロナウイルス感染拡大による影響で中止した。一方、小学生に身近な地域のボランティア活動を知ってもらい、地域でのささえあいの心を育むことを目的とした『ナツボラ・ジュニア』は参加人数を制限するなど、感染防止対策を徹底しボランティアビューローで活動しているボランティアグループ等の協力を得ながら実施することができた。

#### (2) 地域での交流事業

梅丘ボランティアビューローでは、地元商店街や明治大学を中心とする学生ボランティア団体が参加し話し合いを進める等大学との連携を深める新たな交流事業の実施に向けて取り組みを進めた。

また、昨年度開設した砧地域の拠点となる、砧ボランティアビューロー準備室には、多くの相談や活動依頼等が寄せられており、地域交流事業の取組みも進んでいる。

#### (3) 災害ボランティア事業

せたがや災害ボランティアセンター事業では、災害からの復旧・復興にかかわる多様な人材を幅広く確保する観点から『災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編）』をオンラインにより実施した。また、水害に備えて、区民への普及活動、コーディネーター養成活動、マニュアルの検討、活動用資機材の整備等を進めた。さらに、10月から専門家や区職員、地域の方が加わり、サテライト運営マニュアルの作成を進めている。また、サテライトと避難所を周知するリーフレットを作成した。さらに、コーディネーター同士の交流の場として12月に烏山地域、1月に砧地域、3月に玉川地域で「防災座談会」を開催した。

#### (4) チャイルドライン事業

せたがやチャイルドライン事業は、専用回線の有料ダイヤルと全国のチャイルドラインと連携したフリーダイヤルの2回線で受けた。コロナ禍ではバザーが中止となり、財源の確保が厳しい状況となっているが、手作りボランティアによる布マスクの製作と世田谷美術館での委託販売や寄付を呼びかける等の取組みにより活動資金の確保に努めた。

新たな取組みとして昨年度『東急子ども応援プログラム助成』を受けて実施したインターネットを活用したスマートフォン等を使い、会話のように短い文書のやり取りができるオンラインチャット事業を実施し、9月の事業報告会では電話にはない機能を使った相談の効果や成果を報告した。

# 1. ボランティアコーディネーター事業

## (1) 主な取り組みと進捗状況

### ①ボランティア相談

ボランティア活動希望者やボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談事業実績  
面談受付件数

拠点	ボランティア したい	ボランティア 求む	ボランティア求む以外の相談				小 計	合 計
			情報求む	物品提供	学習 ・協力	その他		
センター	77	63	12	4	3	11	30	170
梅丘	43	17	2	8	0	1	11	71
代田	32	7	11	5	1	4	21	60
玉川	117	35	4	0	0	5	9	161
砧	99	43	55	0	6	6	67	203
合計	368	165	84	17	10	27	138	665

### ②NPO・市民活動相談

#### 1) NPO・市民活動相談

世田谷区からの受託事業として、NPO等市民活動の相談窓口を開設し、任意団体の立ち上げ・運営や、NPO法人の設立などの相談事業実績

区分	任意団体の 立ち上げ・ 運営	NPO 法人の 設立	NPO 法人の 運営に関する こと	NPO 法人の 運営実務 会計・税務・労務	その他 情報求む	計
個人	60	14	2	0	0	76
任意団体	132	6	1	0	0	139
NPO法人	3	0	28	0	4	35
その他の機関	0	0	3	0	0	3
合計	195	20	34	0	4	253

#### 2) NPO・市民活動団体向けセミナーの開催

実施日	テーマ・内容	参加者数
11/26 (木)	NPO&市民活動応援セミナーI 「教えて先輩！手作りできとくむ社会課題と突破口」 講師・和田敏子	20名
3/6 (日)	NPO&市民活動応援セミナーII (オンライン) 「コロナ禍だからやってみよう～0歳児親子のための子育て集会所」 講師：笹子真未 (かみきた子育て集会所) 西川正 (NPO 法人ハンズオン埼玉)	20名

### ③世田谷区提案型協働事業

提案型共同事業は、地域の課題解決等を行う NPO 等を公募し、区と協働で課題解決に向け具体的な活動を実施する事業である。ボランティア協会は、「中間支援 NPO 等」として、NPO 等の活動団体を支援し NPO 等と企業・行政をつなぐ役割を担い、事業の調整・管理や実施団体へのサポートおよびコーディネートを行っている。

- ・団体に対する提案書の作成支援・取りまとめと、選定委員との調整 (5月)
- ・一次選定会実施 (5/26、オンライン)・二次選定会実施 (6/1、6/3、オンライン)

- ・事業実施に向けた打ち合わせ、協定書の締結、補助金交付申請のサポート（6月～7月）
- ・団体からの相談対応・団体イベントの広報、見学（随時）
- ・中間報告会に関する選定委員との調整
- ・中間報告会資料（団体提出）の受付（10月20日締め切り）
- ・中間報告会開催（11/9）
- ・中間支援組織としての中間報告会資料を区に提出（12月7日）
- ・事業終了（2月末）に伴う振り返り会（3月上旬）と成果報告会（3/16）開催
- ・NPO等による令和4年度事業応募開始（2/15）、個別相談会開催（4件）

#### ④イブニングプログラム

ボランティアセンターの夜間時間帯を活用し、地域の人たちが気軽に参加できるボランティア活動のきっかけとなる機会の提供

曜日	テーマ	内 容	回数	参加者数
水	編み物ボランティア 「ニットカフェ」	地域とのゆるやかなつながりをつくるプログラムとして、バザー品として提供される毛糸の再利用も兼ねた「編み物カフェ」。 10月から活動を再開した。	14回	53名

#### ⑤傾聴ボランティア

##### 1) 傾聴ボランティアの派遣

ひとり暮らしや日中独居高齢者の精神的なサポートを行うため、傾聴ボランティアを派遣した。関係機関の協力を得て傾聴ボランティアのニーズを募集し、コーディネートした。新型コロナウイルス感染症の影響で通常の傾聴活動が難しい状況であったが、はがきや電話でのやり取りを行った。

##### 2) 傾聴ボランティア フォロー講座

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

##### 3) 傾聴ボランティア交流会

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

##### 4) しょうまごはん会

夕食を誰かとともにできる機会がない高齢者のために、傾聴ボランティアと調理ボランティアの協力で「しょうまごはん会」を通常毎月第3火曜日に企画・実施。4月は新型コロナウイルス感染症の影響により「しょうまごはん弁当」と手法を変更し実施した（参加者30人）。5月以降は新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止となった。

#### ⑥「いっしょに食べよ」ワークショップ

福祉事業部と協働で、ひとり暮らしや自力移動が難しく、フォーマルなサービスにつながらない方を対象に通常、毎月1回夕食会を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

### (2) 今後の課題

ボランティアコーディネート事業では、直接、対人の関りが中心となるため、対面での交流が制限される新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの事業が中止となった。相談事業については相談件数の減少はないものの、訪問件数は縮小し電話対応で終止する状況となっている。今後も感染症の影響は大きいですが、コロナ禍で人と交流する機会がないことを踏まえ、貴重な交流の機会として感染防止対策を徹底し事業を進めていく。

## 2. ボランティア情報ネットワーク事業

### (1) 主な取り組みと進捗状況

#### ①紙媒体での情報発信

##### 1) ボランティア情報誌「セタガヤ・ボランティア・ネットワーク=セボネ」の発行

「人が変わる社会が変わる」をコンセプトに、生活のあらゆる場面からボランティアを身近に感じてもらうための情報誌「セボネ」を毎月約4,500部発行した。特集記事や団体紹介等の掲載内容の検討にあたっては、ボランティアの編集委員による編集会議を毎月開催し、誌面の充実を図った。10月号は災害特集号としてカラー印刷を行った。

*セボネ編集委員	星野弥生、佐藤研資、市川徹、鈴木朋子
*編集会議開催日	4/13、5/11、6/8、7/6、8/12、9/17、10/12、11/10、12/8、1/11、2/8、3/10
*発送作業ボランティア	延べ4名（緊急事態宣言の影響により4～5月はボランティアの発送作業は中止した）

発行月	誌面内容
4月号 イラスト ery	特集＝「傾聴」はこころのふれあい まちの市民力！「上町まるものがたり」
5月号 イラスト 浅川 七緒美	特集＝「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」が大切にするのは？ まちの市民力！「地域サロン オアシス」 キラリ世田谷人＝ 森 郁子さん
6月号 イラスト 小針 麻記子	特集＝「ルポライター 杉山春さん特別講演会 子どもたちの命を守るには - 虐待事件を取材して」 まちの市民力！「いまできること～おうちですごそうプロジェクト～」 キラリ世田谷人＝ 温井 克子さん
7月号 イラスト 山田 秀夫	特集＝「みどり」の季節に、「世田谷みどり33」を考える キラリ世田谷人＝ 森 優子さん NPO・市民活動セミナー実施報告 前編
8月号 イラスト 柳沼モン治	特集＝砧ボランティアビューロー準備室開設1周年 せたがや災害ボランティアセンターレポート NPO・市民活動セミナー実施報告 後編
9月号 イラスト 松村 豊日	特集＝追悼！碓井英一さん「世田谷のボランティア活動のためにありがとう ございました。」 まちの市民力！「NPO法人学ボラ・サポート・プロジェクト」 せたがやチャイルドラインレポート
10月号 イラスト 宮本 展子	特集＝「どうする！？『在宅避難』～避難生活はどこでしますか？～」 キラリ世田谷人＝ 清水孝彰さん
11月号 イラスト 湯山 猛洋	特集＝GIGAスクール構想とは～コロナ禍で学校はどう変わるのでしょ うか？～ まちの市民力！「極楽フェス2021」 キラリ世田谷人＝ 中川 清史さん
12月号	特集＝「傘田悌三さんという生き方」

イラスト ぼん（青木優佳さん）	まちの市民力！「東京で(国)境をこえる」 ボランティアビューロー通信～ボランティアだより～
1月号 イラスト 中川 陽子	特集＝「ぼーとせたがやの「今」と「これから」」 せたがや災害ボランティアセンターレポート
2月号 イラスト	特集＝「自然の恵みで全国をつなぐ～福岡県黒木町からのたより～」 まちの市民力！「かみきた子育て集会所」 キラリ世田谷人＝ 森本 八月喜さん
3月号 イラスト	特集＝「民生委員という名のボランティア」 まちの市民力！「昭和を語る男の会」 せたがや災害ボランティアセンターレポート～第4回防災シンポジウム～

## 2) 「ビューローだより」の発行

地域の人たちに、ボランティアビューロー事業の紹介やボランティア活動の情報を提供するために、毎月1回「ビューローだより」（代田は「ボランティアだより」）を発行した。

（毎月の発行部数：梅丘1,720部、代田1,110部、玉川1,950部、砧1,490部）

## ②WEB 媒体による情報発信 協会ホームページの運営

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度はホームページへの投稿及び閲覧数が大幅に減少したが、2021年度は、ホームページアクセス数や投稿数も増えてきている。イベント事業が実施されるとのアクセス数も伸びる傾向にある。

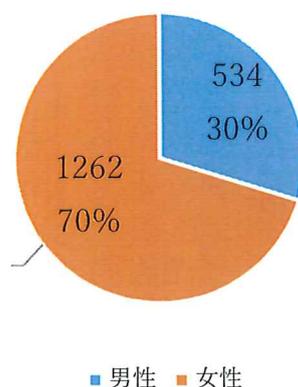
項 目	実 績
ホームページに掲載したボランティア情報（イベント含む）	232 件
ホームページの閲覧数	372,353 件
Facebook の閲覧数	(協会) 17,936 件 (災害) 3,726 件
Facebook 『いいね』の件数	(協会) 7,296 件 (災害) 2,238 件

## ③ボランティア情報サイト「おたがいさまbank」を活用した情報提供

登録者へ月1回のメールでの情報提供（メルマガ）や、そ臨時便を随時発行。

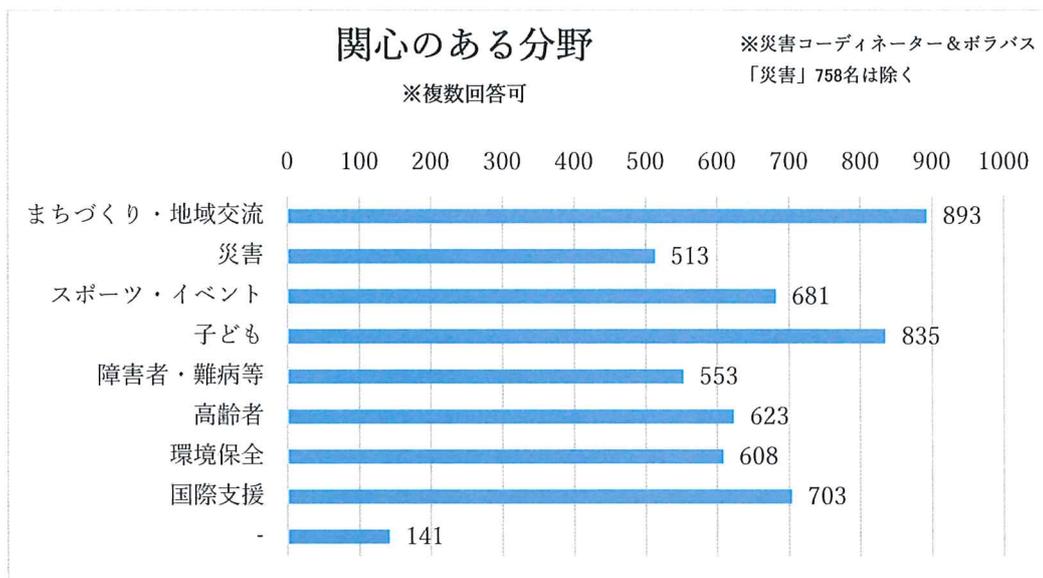
登録人数（3月末）	2,825名
男女比	男性30%、女性70%

男女比



年代別





#### ④ボランティア・市民活動情報の収集と掲示・展示コーナーの設置運営

区内外の市民団体や関係機関の資料を収集し、掲示・展示コーナーを設けて、協会に寄せられる市民団体や地域活動情報の提供を行った。

#### (2) 今後の課題

コロナ禍にあり、家で過ごす時間も増えており、情報・ネットワークの取り組みはさらに重点をおいて進めていく事業であると認識している。発信をしたことでの効果を検証するため利用者にアンケート調査を実施し、より効果的な媒体として具体的な対応を進めていきたい。

### 3. ボランティア学習事業

#### (1) 主な取り組みと進捗状況

##### ①総合学習・奉仕体験活動等コーディネート

##### 1) 日本女子体育大学附属二階堂高校への授業協力

保健福祉（福祉・看護・保育）の授業を選択している第1学年を対象に、ボランティアについて学ぶ「ボランティア入門講座」を実施した。

実施日	内容	対象
7/5 (月) 5, 6 時間目	「ボランティア入門講座」 講師：明治大学大学生 3 名、和泉ボランティアセンター職員 1 名、 協会職員 1 名	第 1 学年 12 名

##### 2) 区立小中学校への授業協力

依頼に応じて社会福祉に関する授業のコーディネートを行う。

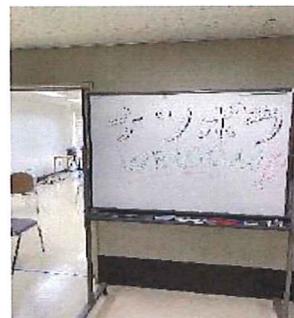
実施日	内容	対象
9/10(金)	ボランティアはじめのいっぽ！ 一歩踏み出すきっかけづくり ～Zoom 編～ ・講師：協会職員 2 名	給田小学校 6 年生 120 名
10/11(月)	ボランティアはじめのいっぽ！ 一歩踏み出すきっかけづくり ～全員集合編～ ・講師：協会職員 2 名 ・コロナ禍でも得られたこと / 困っていること ・事例をもとに、こんなことやってみたい	給田小学校 6 年生 120 名

## ②夏のボランティア体験プログラム『ナツボラ 2021』

区内に在住在学の中中学生から大学生及び30歳くらいまでの青少年を対象に、ボランティア体験のプログラムを実施している。新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティアの受け入れが難しい施設が多いため、今年度のナツボラ事業実施を中止した。一方、学生からのボランティア相談は、通常のボランティア相談として対応した。

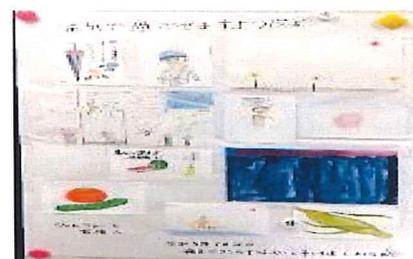
## ③小学生向けプログラム『ナツボラ・ジュニア 2021』

夏休み中の地元の小学生と保護者を対象に、地域の身近なボランティア活動を知ってもらい、地域のささえあいの心を育むことを目的として、ボランティアビューローを拠点に活動しているボランティアグループや、地域の福祉施設等の協力を得て、4カ所のビューロー合同で、ボランティア1日体験プログラムを企画した。緊急事態宣言が発令された影響で施設の受入が難しくなり、全13プログラムのうち5プログラムが中止となった。



体験期間：7/21～8/31（申込み受付は7/10～）申込者数37名、参加者合計30名、延べ32名

拠点	参加延べ人数	協力団体
梅丘ボランティアビューロー	21名	世田谷録音奉仕グループひびき、二八会、グルポ6（セイス）リフォームメイキング和裁
代田ボランティアビューロー	6名	荻野洋一氏（ミニキャブ区民の会理事長）・東北沢つどいの家、小田憲子氏（日本ボッチャ協会公認審判員） （新型コロナウイルスの影響で中止プログラムあり、折り紙ボランティア・グループホームウェルファー・ふくろうの家は依頼をキャンセルした）
玉川ボランティアビューロー	0名	二子玉川公園サポーターみどりグループ、二子玉川公園サポーター安全安心グループ、二子玉川公園ビジターセンター（新型コロナウイルスの影響でいずれも中止）
砧ボランティアビューロー準備室	5名	（一財）世田谷トラストまちづくり 竹山ボランティア、傾聴ボランティア砧グループ、砧ホーム



#### ④せたがやキャンパス・ネットワーク

##### 1) 昭和女子大学

福祉社会学科「ソーシャルワークプロジェクトⅠ」の授業に協力し、オンライン授業を行った。

実施日	内 容	対象
4/28 (水)	ボランティアマナートレーニング、コミュニケーションについて 講師：協会職員 1名	85名

##### 2) 産業能率大学

経営学部「社会貢献とボランティア活動」の授業に協力し、オンライン授業を行った。

実施日	内 容	対象
10/15 (金)	ボランティアはじめのいっぽ！ 大学生ボランティアデビューのきっかけづくり ボランティアセンターについて、ボランティア活動事例、社会課題とボランティアについて *大学2～3年生を対象に実施 講師：協会職員 2名	20名

#### (2) 今後の課題

コロナ禍で、これまでのように体験型のプログラムが進められず、学校からの授業協力等も難しい状況となっている。これまでつながりのあった学校とは情報交換を行いながら活動が継続できるよう取組みを進める。また、実績のある教育期間以外にも関係を築くため取組みも進めより多くの大学や小中学校と事業を展開していく。

### 4. 地域連携促進事業

#### (1) 主な取り組みと進捗状況

##### ①自主活動への支援

営利を目的としない区民・団体の自主活動の支援を目的に会議室や機材の提供等を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言発出中はセンターの閉所時間を20時まで短縮(本来は21時まで)し、会場利用の人数を制限して密にならない工夫や、使用中の換気の徹底、当日の会場利用者の把握、使用後の消毒など、感染防止対策を徹底した。

##### 1) 会議室利用状況

拠点	開所日数	利用人数	利用団体
センター	292日	6,123名	798団体
梅丘	290日	2,153名	358団体
代田	290日	2,759名	325団体
玉川	289日	3,592名	458団体
砧	289日	貸出なし	貸出なし
全体	-	14,627名	1,939団体

##### 2) 機材の提供(センター)

器材名	件数
インターネット	40
プロジェクター	21
スクリーン	15

## ②「極楽フェス」への参加

地域がつながるアートプロジェクトとして、世田谷パブリックシアターが主催する事業。世田谷の街の魅力を地域にアピールする催しで、三軒茶屋・下馬地区では下馬北町会や地域の福祉施設などが加わり9月4日・5日の2日間「極楽フェス」を開催した。ボランティアセンターは演劇ワークショップ等の会場として協力した。(延べ来場者数100名)

## ③「第44回雑居まつり」への参加

10月10日に羽根木公園で開催された「雑居まつり」に参加した。

## (2) 今後の課題

会場の貸し出しについては新型コロナウイルス感染状況によって利用制限の緩和等を実施していく。また、地域の祭り等のイベントが開催された場合は積極的に参加するとともに感染防止を徹底し協会のイベントを再開する。

## 5. パートナーシップ事業

### (1) 主な取り組みと進捗状況

#### ①世田谷市民活動支援会議への参加

世田谷区内の中間支援機関と行政が集まり、情報交換を行っている。

- ・第1回：9/22(水)11:00～12:00 オンライン
- ・第2回：11/8(月)10:00～11:00 オンライン
- ・第3回：12/17(金)13:00～14:00 オンライン

\*参加団体・組織：世田谷区社会福祉協議会、生活工房、世田谷トラストまちづくり、国際ボランティア学生協会、世田谷ボランティア協会、世田谷区市民活動・生涯現役推進課(主催)

#### ②第38回ボランティア推進団体会議(民ボラ会議)への参加

新型コロナウイルスの影響でオンラインでの開催となった。今後もそれぞれの地域で起こりうる緊急災害時への支援のために、顔が見える関係を継続しつなげていく。

#### ③世田谷区採用1年目後期「障害福祉体験」研修の実施

世田谷区の採用1年目職員を対象に、世田谷区より受託した「障害福祉体験」研修を実施した。「誰もが暮らしやすいまちを実現するために」をテーマに、屋内・屋外で車いす体験やアイマスク体験、当事者講師から研修生全員に向けてのディスカッション、一部事前録画で対応をして密を避ける工夫と安全対策を行ったうえで実施した。

10/13～12/24(全10回)実施。研修生：計307名、講師：障害当事者各回3名(延べ15名)、職員・スタッフ体制：各回4、5名(合計8名)会場：教育センター

協力：NPO法人世田谷区視力障害者福祉協会、NPO法人世田谷区聴覚障害者協会

#### ④世田谷区「せたがや学生ボランティアフォーラム」への協力

世田谷区市民活動・生涯現役推進課と協働で、「せたがや学生ボランティアネットワーク会議(11月～3月全4回)」および「せたがや学生ボランティアフォーラム(2022年3月配信)」を開催するにあたり、区内の各大学、区、ボランティア活動団体等との意見交換や円滑な進行を行うため、運営支援を行った。また、ネットワーク会議参加団体のニーズに応じ、ボランティア活動のコーディネートを行った。

職員・スタッフ体制：各回4～5名

実施日	内容	参加人数
11/18	第1回ネットワーク会議	18名
12/14	第2回ネットワーク会議	10名
1/19	第3回ネットワーク会議	9名
1/25	臨時ネットワーク会議	2名
2/17	フォーラム打合せ	8名
2/25	フォーラム収録	10名
3/28	第4回ネットワーク会議	6名

#### ⑤施設、団体、NPO、機関等への職員派遣協力

世田谷地域ケア会議 年2回

#### ⑥ インターンシップ等の受け入れ

産業能率大学のインターンシップ受け入れを8月に実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

### (2) 今後の課題

コロナ禍においてもオンライン等手法を工夫し、他の中間支援組織や関係機関と交流して情報収集や意見交換を行いタイムリーな情報共有に努める。

## 6. コミュニティビジネス事業

### (1) 主な取り組みと進捗状況

#### ①リサイクル市の開催

リユース活動の推進と、事業活動資金の確保を目的に、バザーグループ「てんとう虫」の協力（バザーの仕分け、値付け等）を得て、世田谷ボランティアセンター2階会議室において「リサイクル市」を例年開催している。新型コロナウイルス感染症の影響により、毎週火曜日のバザーグループの活動、リサイクル市もともに中止した。合わせてバザー用提供品の受付も中止とした。

#### ②烏山もったいないバザールの開催

例年5月に実施している、烏山地域でのボランティア協会の認知度アップや烏山地域のボランティア窓口設置へのアピールを行う烏山もったいないバザールは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

#### ③「土曜日」の開催

ボランティア協会の認知度アップや資金調達のため、毎月第4土曜日に協会前の車寄せで行っている土曜日の実施を、新型コロナウイルス感染症の影響により見送った。

#### ④コミュニティ・ビジネス活動

リサイクルを目的としてアクリルたわしや毛糸等の販売や、主に業者向けに油のふき取り等へ活用する古布を切って作るウェスについてはコロナ禍で関係業者への販売がなかった。

	ニット	ウェス	売り上げ
収入	6,950円	0円	6,950円

### (2) 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、感染症の対策等、安全確保に努め、自主財源の確保と多様なボランティア参加の機会となるバザー事業の再開を目指す。

## 7. ボランティアビューローでの事業

より地域に密着したボランティア拠点として、地域の人たちが出会い、ふれあい、学びあう、暮らしに根ざした特色ある事業を行った。

### (1) 主な取り組みと進捗状況の報告

#### ①梅丘ボランティアビューロー事業

##### 1) ボランティアコーディネート事業

ア. ボランティア・NPO相談 (1-①のとおり)

イ. 梅丘てしごとカフェ

月2回、特技や興味を活かして地域の人たちにボランティア活動参加の機会を提供した。参加者のアイデアやデザインで布マスクなどのオリジナルグッズを作成した。

年度	参加者数延べ	売り上げ
2021	72名	75,500円
2020	63名	161,100円
2019	108名	85,000円

ウ. はじめカフェ (ボランティアオリエンテーション)

新型コロナウイルスの影響で中止

エ. 失語症カフェ

5年目の今年度も失語症の認知度を高めるため、失語症の当事者やご家族、関心のある方が集う「失語症カフェ」を実施した。コロナ禍で、飲食ができないため内容を「ミニ講座」あるいは「相談」を提供する場に代えて実施し、広報は地域社協やあんしんすこやかセンターなどにチラシ配布(220部)、広報掲示板20か所に掲示。

今年度は失語症の会話等を補助するボランティア(失語症パートナー)の活動場所がコロナ禍で限られているため、特に新人パートナーの活動場所としても失語症カフェを認識してもらえるよう、広報に努める。

実施日	参加人数
5月15日	新型コロナウイルスの影響で中止
7月17日	3人参加(2人は初参加、リハビリ担当のSTさんの紹介)
9月25日	4人参加(発語失行の男性と家族、失語症会話パートナー2人)
11月20日	予約が1人だったので開催中止。その1人は「相談」として対応。
1月22日	3人参加(失語症の女性、一般の女性、失語症会話パートナー)
3月12日	4人参加(発達障害の女性、失語症の女性、失語症会話パートナー2人)

オ. 夏休み子どものランチ会

毎年、夏季の長期休みに、子どもの孤食を防ぐためにボランティアとともに実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。

##### 2) ボランティア情報ネットワーク事業

ア. 「梅丘ビューローだより」の発行 (2-(1)のとおり)

地域の人たちに、ボランティアビューロー事業の紹介やボランティア活動の情報を提供するために、「梅丘ビューローだより」を発行した(毎月1回1,720部発行)。

### 3) ボランティア学習事業

ナツボラ・ジュニア 2021 (3 - (3) のとおり) (7~8月実施)

### 4) 地域連携促進事業

ア. 梅・夢フェスタフリーマーケットへの参加

毎年3月に開催の地元商店街の催しに出店していたが、コロナ禍で中止となった

イ. 年度末大掃除 (3月18日実施)

スタッフとボランティアと一緒に掃除を行い、ボランティア活動グループ同士の親睦を深めるために開催。コロナ禍のため参加者は3名と少なかったが情報交換の場となった。

ウ. ボランティア交流会の開催 (9月17日、3月18日実施)

9月17日に1階のお披露目を兼ねて開催した。5つの団体が参加し、活動についての話など交流することができた。3月は大掃除と同日に開催、活動グループの方以外に初めて一般の方も受け入れる形で行なった。参加者7名、活動について意見や情報交換がされた。

### 5) コミュニティ・ビジネス事業

ア. 梅丘ビューロー うめのや (常設バザー)

昨年秋のバザーが新型コロナウイルス感染症の影響で開催できず、提供品が受けられなかったため、9月までは販売できるものがなく、売り上げは低くなった。11月の秋バザー開催以降は、売り上げが伸びた。

年 度	売り上げ
2021	54,200円
2020	43,500円
2019	112,540円

イ. 梅丘ボランティアビューローバザーの開催 (11月12日、13日開催)

新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しつつ、初めて完全予約制で開催した。予約枠は買い物時間を30分で区切り、それぞれ10人を定員として予約を受けた。140人の枠に対して100人弱が来場し、売上は12万円であった。例年は150人以上が来場し40万円程度の売上になることを思えばかなり少ないが、来場者の感想としては「バザーが復活してうれしい」「ゆったり買い物ができた」と好評であった。今後、コロナ禍で開催していくためには「新しいバザー」あるいはバザーに代わるものを模索すべきと考えている。

ウ. お得市 (ミニバザー) の開催 (2月4日開催)

新型コロナウイルス感染症対策として、11月と同様に予約制で開催した。内容としては秋バザーの半額セール。ボランティアも最小限の人数で開催、来場者数延べ36名、ボランティア16名、売上39,800円。感染状況が悪化する中で中止も考えられたが、対策を取りつつ開催できたことで今後活かせる経験となった。

### ②代田ボランティアビューロー事業

1) ボランティアコーディネーター事業

ア. ボランティア・NPO相談 (1 - (1) のとおり)

イ. 代田ビューロー ご近所カフェ ~「こんにちは」を始めませんか~

ボランティアビューローの認知度を向上するため、毎月3土曜日(午後)に、気軽に館内に入ってもらえるようにオープンスペースを設け、月替わりのお楽しみ企画を実施する。ボランティアビューローがどのような場所かわからない人や、しばらく足が遠退いている人なども含めて地域の方々の憩いの場を目指した。

<参加者数>4月9名、5月新型コロナウイルス感染症の影響で中止、6月6名、7月2名、8月0名、9月は上階からの水漏れのため会場が使えなくなり急遽中止・参加申込者は8名いた。10月3名、11月5名。1月2名、2月5名、3月6名。

\*12月はオープンスペースくつろぎ「クリスマスパーティー」に振りかえた。

#### ウ. ボランティアオリエンテーション

3/7 (土) 13:30~15:30「先輩ボランティアの話を聞いてみよう」と題して、3名の先輩ボランティアの話を聞き、その後、交流会を行った。参加者：8名。

地域の方に代田ビューローや活動者を知ってもらい、ボランティア活動への理解や関心を深める機会として開催した。

#### エ. オープンスペースくつろぎ「クリスマスパーティー」

日頃からビューローで活動するボランティア同士が親睦を深め、相互の活動への理解を深め、地域で暮らす方がビューローとつながる機会をつくった。

12/18 (土)「ご近所カフェ de クリスマス」と題して、クリスマスミニライブを実施。

参加者：14名 (こども1名、演奏ボランティアも含む)

#### オ. 傾聴ボランティア養成講座

話し相手のボランティアを求める地域の相談に応えるため、傾聴ボランティアの養成講座を開催した。11/17~12/15の毎週水曜日全5回 (定員10名)

開催日	参加者数	内 容
11/17	10名	「であう」
11/24	10名	「ふれあう・言葉/態度」
12/ 1	10名	「気持ちを知る」
12/ 8	10名	「価値観の違い」
12/15	9名	「傾聴ボランティアとは」
12/15	9名	「傾聴ボランティアとは」

#### カ. 傾聴ボランティア講座後フォロー

傾聴ボランティア講座の参加者を対象に、活動における悩みや心配事などを共有しながら学習をする機会として、ロールプレイ、グループワーク、ケース検討等を行う学習の場を提供した。傾聴ボランティア活動を継続するための大切な場となっている。

(オンラインにて5月に1回実施：参加者数7名、オンラインにて9月に1回実施：参加者数4名、11月：参加者4名、12月：参加者8名、3月：参加者8名 (砧VB準備室との合同で代田VBボランティア学習会からは5名の参加)

#### キ. ぷらっと代田

代田ボランティアビューローを気軽に立ち寄れる地域の居場所にしてもらうことを目的に、使用済み切手の整理というちょっとしたボランティア活動ができる場を設けた。出入り自由としている。新型コロナウイルス感染防止のため事前申し込み制に変更した。

(17回実施、参加者延べ14名)

## 2) ボランティア情報ネットワーク事業

「ボランティアだより」の発行 (2-②のとおり)

## 3) ボランティア学習事業

ナツボラ・ジュニア 2021 (3-(3)のとおり)

#### 4) 地域連携促進事業

##### ア. 世田谷代田ものこと祭り出店

「世田谷代田ものこと祭り 2021」8/29～9/27 の間でスタンプを6枚集めて1回抽選。スタンプシール配布店として参加をした。自由な形で配布できるので、フルール（常設バザー品100円お買い上げごとに1枚進呈（受け持ち枚数100枚）。

売り上げ金額：18,800円、来場者：延べ67名、シール配布は100枚（受持ち分完了）

##### イ. ビューロー大掃除

3/16（水）13:30～15:30で1階2階の会議室の掃除。コロナ禍なので無理のない範囲で利用者グループに声掛け。参加者：13名

#### 5) コミュニティ・ビジネス事業

##### ア. ふれあいバザール「フルール」

バザー提供品の売り切りと運営費に充てるため、常設バザー「フルール」を開催した。駅前という立地もあり、通りがかりの人がビューローに立ち寄り、その中で生まれた会話から、イベントへの参加やボランティア相談など、つながりが深まることもあった。

年 度	売り上げ
2021	208,650円
2020	14,700円
2019	110,300円

##### イ. 代田ボランティアビューローバザーの開催（10月29日、30日）

リユースをすすめ、ボランティア希望者の受け皿や地域のボランティア活動の機会を広げるためのバザーを年2回計画していたが、今年度は新型コロナ感染拡大防止を考慮し、年1回・秋の実施のみとする。

年 度	来場者数	ボランティア数	売り上げ
2021	83名	延べ 93名	147,400円
2020	88名	延べ 75名	119,100円
2019	723名	延べ 260名	728,990円

※2029年度は2回開催

#### ③玉川ボランティアビューロー事業

##### 1) ボランティアコーディネート事業

##### ア. ボランティア・NPO相談（1-（1）のとおり）

##### イ. 傾聴ボランティア講座

地域の傾聴ニーズに応えるため、傾聴ボランティアの養成講座を開催。

6/23～7/21まで毎週水曜全5回。

実施日	内 容	参加者数
6/23	「であう」	10名
6/30	「ふれあう・言葉／態度」	
7/7	「気持ちを知る」	
7/14	「価値観の違い」	
7/21	「傾聴ボランティアとは」	

#### ウ. 傾聴ボランティア学習会

傾聴ボランティア活動のフォローとして、活動中の悩みや相談など近況報告を共有する場となっている。奇数月の第4水曜日（6回）に開催。

実施日	内 容	参加者数
5/27	近況報告、事例検討	中止
7/28	オリエンテーション、先輩ボランティアの話を聞く会	9名
9/22	近況報告、事例検討	9名
11/10	近況報告、事例検討	9名
2/9	近況報告、ロールプレイ（ZOOM開催）	4名
3/23	近況報告、ロールプレイ	3名

#### エ. 発達講座

「発達オンラインカフェ」など、大人の発達障害のある方のニーズに応え、世田谷区と共催で、「大人の発達障がいのある方とかかわるボランティア養成講座（全3回）」を実施した。（参加者13名。2回目のみオンライン開催）

参加者は、発達障害の基礎を学び、当事者や活動者の話を聞くことで、自身のボランティア活動のイメージづくりとなった。

日程	主な内容	協力者
11月19日	・世田谷区の障害のとらえ方と取り組み・ボランティアについて	世田谷区障害保健福祉課 高野岳誌氏、西中伸太郎氏
11月26日	・発達障害について ・当事者の話	NPO 法人東京都自閉症協会副理事長 尾崎ミオ氏、発達障害当事者3名
12月3日	・ボランティア活動経験者の話 ・参加者意見交換	ボランティア経験者5名 (内2名はオンライン参加)

#### オ. 発達講座フォローアップ

発達講座修了者が対象。1/21参加者2名。玉川VBにてボランティアの活動へのそれぞれの思いを話した。（2/4参加者6名。）

当事者を交えてオンラインカフェ風に対話を体験。3/11「発達学習会」参加者13名（前年度修了者含む）。講師に『みつけばハウス』の尾崎ミオ氏、神宮氏を迎え、講義と質疑応答。『かたりば』の説明を行う。

#### カ. 発達オンラインカフェ

発達障害のある方やご家族とオンラインで交流する場を作る。2020年度の発達講座修了者がボランティアスタッフとして参加した。今年度は「お試しオンラインカフェ」を実施。当事者に協力参加を促し、フィードバックをもらいながらよりよい形を作る。また、学習会を開催し、ボランティアのスキルアップと自信につなげる。

実施日	内 容	参加者数
4/27	第1回お試しオンラインカフェ	12名
5/21	発達学習会：発達障害就労支援現場より	7名
6/18	第2回お試しオンラインカフェ	13名
7/16	お試しオンラインカフェ7月	9名
8月	ボランティアとスタッフのオンライン交流会を実施	
9/16	お試しオンラインカフェ9月	8名
10/17	お試しオンラインカフェ10月	11名
11/19	お試しオンラインカフェ11月	6名
12/17	ボランティアスタッフミーティング(*グループ化決定)	6名
1/21	オンラインカフェ『かたりば1月』	7名

2/18	オンラインカフェ『かたりば2月』	10名
3/18	オンラインカフェ『かたりば3月』	11名

\*3月は2021年度発達講座修了者有志がスタッフとして参加した。

#### キ. 発達障害・障害児サポート情報共有会（年2回）

発達障害と障害児のサポートにかかわる区の担当者、講師、国士舘大学の教員とともに、事業の企画とふりかえりをおこない、またそれぞれの立場の現状報告、それぞれが持つ情報や意見を交換したことをヒントにし、協力体制をとりながらボランティアの養成と地域のニーズ対応に取り組んでいる。（前期8/27／後期3/23実施）

#### ク. 遊ぼう会

毎月1回、地域のお子さんがボランティアをまじえて遊ぶ会を行い、支援の必要な子どもとご家族を積極的に誘っている。障害児（者）とかかわるボランティアのきっかけ、スキルアップ、また、障害児（者）や保護者の居場所となっている。ボランティアグループ『ういきゃん』と共催で、イベントを企画・実施した。新たに参加する学生ボランティアが増えたので、遊ぼう会の大切に行っていることや、障害を持つ子ども（大人）とのかかわり方を説明。

実施日	内 容	参加者数
4/17	二子玉川公園でネイチャービンゴ	雨天中止
5/15	オンライン遊ぼう会	8名
6/19	オンライン遊ぼう会	9名
7/31	臨床美術～世界をぬりかえよう	17名
8/21	オンライン遊ぼう会	6名
9/18	オンライン遊ぼう会*公園でネイチャービンゴ雨天中止のため	10名
10/16	公園でネイチャービンゴ	17名
11/20	遊ぼう会の旗を作ろう①	15名
12/18	遊ぼう会の旗を作ろう②	23名

\*6月は6/13第25回せたがや居場所サミットに参加参加した。

#### ケ. 障害についての勉強会

「遊ぼう会」の学生ボランティアが所属する国士舘大学刑事学研究会との共催で、これから社会で活躍する多くの大学生に向けて、障害について「考え・知る機会」として「地域でボランティアをやってみよう！」をオンラインにて開催した（第1回6/10参加者29名。第2回10/14参加者25名）。今年で5年目となった（2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止）。公務員志望の学生が多いことから害者とかかわりについて、公務員の仕事現場から、また保護者の立場からも伝え、将来の仕事に役立つよう工夫している。

#### コ. サポートを求めている子どもに寄り添うボランティア養成講座

障がいの有無にかかわらず、サポートを求めている子どもの発達に寄り添いながらかかわることができるボランティアを育成する目的で区と共催で実施。3回連続講座。参加者14名。

日程	主な内容	協力者
2/24	・子どもとかかわるときに	世田谷区教育相談・支援課教育相談 専門指導員 森田規子氏
3/3	・知的障がい児への理解を 疑似体験と話し ・世田谷区の障がい児支援について	「世田谷区手をつなぐ親の会」 安心ネットせたがや 世田谷区障害保健福祉課 西中伸太郎氏
3/10	・発達障がいとは ・ボランティア活動経験者の話し	世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」 田中良果氏 ボランティア経験者3名

#### サ. チーム子どもサポート

子どもへの個別支援ニーズに対応するボランティアの育成を目的に、勉強会の実施や活動のフォロー、関連機関との関係づくりを行う。今年度より若者編(30才未満)「チーム子どもサポート」とシニア編(年齢制限なし)「子どもサポート フォローの会」を実施。子どもにかかわる依頼に個別に対応するボランティアを養成し、サポートをおこなう。特に若者編では、いじめや虐待による不登校や発達障害のある子どもとかかわる依頼も増えているため、難しい対応を求められることのある若者を支えるために、何でも話せる場や必要な学びの場を提供する。またシニア編では「サポートを求めている子どもに寄り添うボランティア養成講座」修了者のフォローアップをおこなう。ボランティアからの相談には随時対応する。

対 象	実施日/参加者数	合計
若者編	4/24:参加者5名、6/5:参加者7名、8/6:参加者9名、10/8:参加者3名、12/10:参加者4名、2/18:参加者4名 *6回開催	32名
シニア編	4/22:参加者6名、7/29:参加者5名、10/29:参加者3名、2/3:参加者5名 *4回開催	19名

#### シ. ボラカフェ

ボランティア活動に興味はあるが、なかなか一歩が踏み出せない人や、地域と関わる機会がほしい人のために居場所を提供した。毎年参加していた花みず木フェスティバル出店は中止。(4/24名、5/7と6/4は新型コロナウイルスの影響で中止、7/2参加者4名、8/6参加者5名、9/4参加者5名、10/1参加者3名、11/5参加者5名、12/3参加者7名)

#### ス. 昭和を語る男の会

男性の孤独死が増えているなどに対する地域の要望に応じて、男性の居場所づくりを目指して開催する。昭和を切り口にして毎回テーマを設けて、参加者同士が話し合う。

(4/23参加者5名、5/28新型コロナウイルスの影響で中止、6/25参加者8名、7/30参加者10名、ITSCOMの取材を受けCATVで放送された。9/24参加者12名、10/22参加者8名、12/24参加者9名、1/28新型コロナウイルスの影響で中止、2/25新型コロナウイルスの影響で中止、3/25参加者8名)

### 2) ボランティア情報ネットワーク事業

「玉川ビューロー ボランティアだより」の発行 (2-②のとおり)

### 3) ボランティア学習事業

ナツボラ・ジュニア2021 (3-(3)のとおり)

### 4) 地域連携促進事業

ア. 二子玉川花みず木フェスティバルへの参加

新型コロナウイルスの影響で中止。

イ. 玉川ビューロー利用者交流会

今年度中に実施予定。

### 5) コミュニティ・ビジネス事業

玉川ボランティアビューローバザー ミニバザーを2月に実施予定。

ミニバザー実施(2/9~3/11)。一昨年度までの在庫品を中心に、ビューローの空きスペースを展示してミニバザーを実施した。

#### ④砧ボランティアビューロー準備室事業

2020年6月22日に「砧ボランティアビューロー準備室」を開設し1年が経過した。  
会議室・集会室を持たないが、相談拠点として、砧地域のボランティア活動推進にあたっている。

##### 1) ボランティアコーディネート事業

ア. ボランティア・NPO相談（1－（1）のとおり）

イ. 傾聴ボランティア入門講座

話し相手を求める地域からの相談に応えるため傾聴ボランティアの養成として実施。会場は成城まちづくりセンター活動フロア等を借用した。

（1/19:参加者14名、1/26:参加者15名、2/2:参加者15名、2/16:参加者15名、  
3/2:参加者15名）

ウ. 傾聴ボランティア学習会の実施

傾聴ボランティア入門講座、ステップアップ講座を修了し、傾聴ボランティア活動を希望する人へのフォローアップと支え合い、情報交換の場として1～2ヶ月に1回実施する。

※5月の講座は緊急事態宣言により中止としたが、参加予定者に連絡を取り話を聴き、労いの時間をもった。会場は成城まちづくりセンター活動フロア等を借用した。

（5/19:中止、7/21、9/8、10/13、12/8、1/12、3/9）

オ. ボランティアオリエンテーションの実施（交流会の内容を含む）

カ. おしゃべりサロン「きぬたまり」

主に地域で孤立しがちな高齢の方々等に気軽に立ち寄りおしゃべりができる場を作り、傾聴ボランティアも参加して、交流できる時間を作った。会場は成城まちづくりセンター活動フロア等を借用し水曜日に実施した。

（4/14:参加者8名、5/22日:参加者7名、6/9:参加者8名、7/21:参加者3名

※ナツボラジュニアのプログラムとコラボ開催、9/8:参加者4名、10/13:参加者7名、  
12/8:参加者5名、1/12:参加者4名、2/9:参加者5名、3/9:参加者5名）

キ. 筆文字でエールを送ろう

新型コロナウイルスの影響で中止

ク. 災害ボランティア（被災地動物ボランティア）活動学習会

新型コロナウイルスの影響で中止

ケ. 実家の片付け応援プロジェクト（新型コロナウイルスの影響で中止）

##### 2) ボランティア情報ネットワーク事業

「砧ビューロー準備室 ボランティアだより」の発行（2－②のとおり）

##### 3) ボランティア学習事業

ナツボラ・ジュニア2021（3－（3）のとおり）

##### 4) 地域連携促進事業

ア. 地域イベント・会合への参加

身近な地域の多様な活動を紹介する催しとして実施している『ご近所フォーラム』の実行委員として実行委員会への参加した。コロナ禍で委員会は主にオンラインにて月1回実施。（4/26、5/26、7/30、8/30、9/28、10/27、11/18、12/22、1/12:取材、1/26、3/19:オンライン視聴）

イ. 砧地域ケア連絡会への参加

砧地域で介護等が必要になる方々に対しての福祉サービス利用について等考える情報交換会へ参加した。(6/16、7/21、9/15、10/20、11/17、12/15、1/19、3/16)

ウ. 祖師谷区民講座への参加

実施日：6/12：スタッフがZOOMで参加

エ. 成城あんしんすこやかセンター地区版地域ケア会議への出席

実施日：3/14

オ. ボランティア交流会の実施

主に砧地域で活動しているボランティア活動者やこれから始めていきたい方々との交流の場を成城まちづくりセンター活動フロアを借用して実施した。

実施日：3/24：参加者18名

(2) 今後の課題

各地域のボランティア拠点であるボランティアビューローについては、コロナ禍においても地域ごとに小回りの利くプログラムを基本としているため、密にならず実施できる事業が多く各地域特性を活かした事業運営を進めることができた。バザー等一部現行では難しい事業についても工夫をしながら進めてきており、今後も小さく密にならずに実施できるメリットを生かして地域のニーズを反映した事業展開を図っていきたい。

## 8. せたがや災害ボランティアセンター事業

新型コロナウイルス感染症流行の下、Zoom 等を活用したオンラインによる講座を開催し、幅広い人材の養成に取り組んだ。

多くのコーディネーターがオンライン講座に参加できるように Zoom の初心者向けの講座を始め、水害時の災害ボランティア対応や在宅避難をテーマとした講座を連続開催し、コーディネーターのモチベーションの維持とスキル向上を目指した。12 月から地域ごとにコーディネーターが集まり、コーディネーターの役割や活動などについて意見や質問をしながら、交流する「防災座談会」を開催した。これは今後も継続していく。

また、4 月末に、区内在住のコーディネーターに担当するサテライトを通知した。5 月中旬には世田谷での水害に備え、コーディネーターの「活動マニュアル<水害編>」を、すべてのまちづくりセンターに送付・周知を図った。

### (1) 主な取り組みと進捗状況

#### ①災害ボランティアコーディネーターの養成

##### 1) 災害ボランティアコーディネーター養成講座の開催状況

コロナ禍にあっても多くの方が受講するオンライン講座等の新たな手法による人材の養成に取り組んだ。

	事業名	日程	参加者(視聴者)
1	はじめての Zoom	5 月 13 日	10 名
2	はじめての Zoom	5 月 15 日	4 名
3	はじめての Zoom	5 月 18 日	7 名
4	スキルアップ講座(水害編)	5 月 22 日	18 名
5	基礎編・昭和女子大学(オンライン)	5 月 28 日	50 名
6	スキルアップ講座(Zoom 講座実践編在宅避難とボランティア支援)	7 月 17 日	28 名
7	二階堂高校コーディネーター養成講座	11 月 22 日	20 名
8	シニアの社会参加プロジェクト	12 月 17 日	23 名
9	専修講座(トラブル対応編)	3 月 26 日	47 名

##### 2) 養成講座の内容

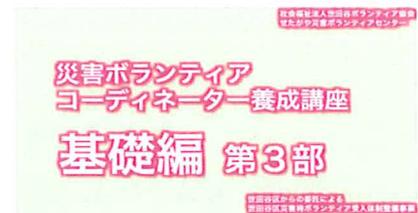
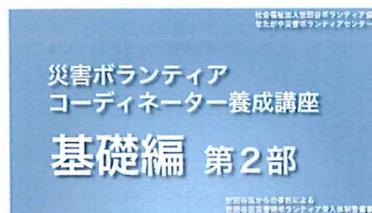
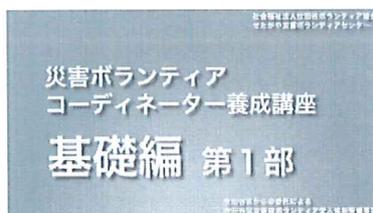
###### ア 基礎編(オンライン講座)

(第 1 部) 世田谷区の被害想定と震災対策

(第 2 部) 世田谷区の災害ボランティア受入体制

(第 3 部) コーディネーターの活動

受講者(視聴者)数 4 月～3 月 612 名



###### イ 防災座談会

	地域名	日程	参加者
1	世田谷	-	-
2	北沢	-	-

3	玉川	3月19日(土)	12名
4	砧	1月23日(土)	13名
5	烏山	12月11日(土)	14名

## ②防災シンポジウム

1月15日(土)北沢タウンホール及びオンラインで開催した。テーマは「在宅避難と災害ボランティア」で、災害時に在宅避難する場合の備えについてパネルディスカッションで議論した。会場で参加、オンラインでの参加を可能とし、110名が参加した。

## ③マッチングシステムの理解促進

各地区で実施された避難所運営訓練等に参加し、災害ボランティアのマッチングの仕組みを説明するとともに、防災講話等の依頼を受けるなど、町会やまちづくりセンター等との連携を図った。

### 1) 避難所運営委員会への協力

	事業名	内容	日程	参加者
1	梅丘中学校(延期)	-	6/16	-
2	三軒茶屋小学校	テラトと避難所	7/21	16名
3	中丸小学校	校内配置の確認	8/25	27名
4	駒留中学校	校内配置の確認	8/26	11名
5	駒繫小学校	テラトと避難所	9/24	22名
6	旧北沢小学校	校内配置の確認	11/28	30名
7	松沢小学校(延期)	-	-	-
8	松沢小学校	訓練について	3/3	6名

### 2) 避難所運営訓練

	事業名	内容	日程	参加者
1	烏山小学校(中止)	合同	5/9	-
2	三軒茶屋小学校(延期)	合同	9/11	-
3	三宿中学校(中止)	合同	9/25	-
4	中丸小学校	講話	10/9	29名
5	駒繫小学校	講話	10/17	32名
6	旭小学校	講話	10/24	24名
7	駒留中学校(延期)	参加	-	-
8	富士中学校	講話	11/14	50名
9	太子堂中学校	参加	11/20	
10	駒留中学校	参加	11/27	100名
11	駒沢小学校(延期)	参加	-	-
12	三軒茶屋小学校(中止)	参加	-	-
13	瀬田小中(中止)	合同	-	-
14	池尻小学校(中止)	参加	-	-
15	駒沢中学校(中止)	参加	-	-
16	三宿小学校(中止)	参加	-	-
17	松沢小学校	講話	3/12	33名

### 3) 防災講話(防災塾等)

	事業名	内容	日程	参加者
1	下馬北町会防災訓練	参加	4/4	38名
2	代沢身近なまち懇談会(延期)	講話	-	-
3	太子堂区民センター防災講座(中止)	講話	-	-
4	代沢身近なまちづくり懇談会	講話	11/9	20名
5	災害支援基金シンポジウム	講話	11/12	30名
6	下馬防災講演会(中止)	講話	11/19	30名
7	ななつこの防災講座	講話	11/23	10名
8	若林あんしんすこやかセンター防災講座	講話	11/24	10名
9	下馬北町会防災講座	講話	12/12	50名
10	上北沢地区防災塾(紙面開催)	配布	1/22	-
11	松沢地区防災塾(延期)	-	-	-
12	烏山地区防災塾(延期)	-	-	-
13	用賀地区防災塾(中止)	-	-	-
14	下馬生活環境防災研修会(中止)	-	-	-
15	上町みぢまち防災講座(中止)	-	-	-
16	上馬東町会防災講座(中止)	-	-	-

### 4) 町会自治会、区・まちづくりセンター、社会福祉協議会等との打合せ等

#### ア 町会自治会(打合せ、防災訓練参加等)

#### イ 区・まちづくりセンター(打合せ等)

幹事会参加(5月7日)

各まちづくりセンターに水害マニュアル送付(5月28日)

下馬まちセン所長(7月9日)

各地域防災係長会(10月~11月)

上北沢まちづくりセンター(11月5日)

用賀まちづくりセンター(11月10日)

下馬まちづくりセンター(11月13日)

上町まちづくりセンター(12月3日)

#### ウ 地区社会福祉協議会、民生委児童委員等(打合せ)

区社会福祉協議会(7月15日)

世田谷サービス公社(7月20日)

若林あんしんすこやかセンター(9月28日)

### ④災害ボランティア学習事業

#### 1) 芦花高校防災講座

都立芦花高校生徒への防災教育を推進する。

実施日	内容	参加人数
7月14日	防災教育推進委員会(中止)	-
10月22日	防災教育推進委員会	-
10月29日	防災教室(中止)	-

## 2) 二階堂高校防災講座

災害ボランティア活動への理解を深める。

実施日	内 容	参加人数
12月17日	テーマ「災害時に高校生が地域にどう貢献するか」 災害時の高校生のボランティア活動の紹介 防災クイズ（高校生向け）	20名

## ⑤ワーキングチームの開催

「世田谷方式」の実効力を高めるために、災害ボランティアセンターが取り組むべき課題ごとに検討するワーキングチームを組み、7月から検討を始めた。

### 1) サテライト運営マニュアル制作ワーキング

コーディネーターがサテライトを運営するために必要な情報をわかりやすく解説するマニュアルを制作する。

### 2) リフレット(避難所とサテライトのつながり)作成ワーキング

コーディネーターだけでなく、多くの人にサテライトとは何かを説明するための資料を作成する。

### 3) コーディネーターの養成・充実ワーキング

災害時に活動できるコーディネーターを養成・充実するために、今後の養成講座のあり方を検討する。

## ⑥資機材の整備

災害時の活動に備えて、資機材の動作確認や資機材リストの作成、防災倉庫の片づけ等、感染症予防を徹底するため、ボランティアの参加人数を各回4人までとし、Zoom会議を併用した。

4月25日(事前打ち合わせ)、5月16日、6月27日 7月11日 3回開催 延べ18名参加

## ⑦広域等連携

### 1) 城南ブロック担当者会議

10月13日(オンライン)、1月26日(目黒区)

### 2) NPO 防災アクション

11月6日 防災訓練

### 3) 静岡県内外災害ボランティア図上訓練

12/17-18 オンライン参加

### 4) 神奈川県広域連携図上訓練

1/25、2/23 オンライン参加

## ⑧広域支援事業

川内村(福島県)

12月5、6日 職員4名(現地調査)

## (2) 今後の課題

- ① コーディネーター養成講座は、大学の教室等の集会型養成講座に加えて、多くの方が受講できる様なオンライン講座等の、多様な手法による人材の養成を進め、登録者を増やしていく。
- ② サテライトは、最大100か所を超えることも想定されるが、核となるコーディネーター人材の確保、登録者のモチベーションの維持とスキル向上が継続的な課題である。
- ③ 感染症対策の必要性や地域の復興力を高めるためには、これまで以上に地元地域から災害ボランティアの育成に力を注ぐ必要がある。そのためには、災害ボランティアのすそ野を広げて、

災害時に実際に活動できる災害ボランティアを幅広く確保し、育成し、ボランティア活動全体を底上げすることが課題である。

- ④ 令和2年度に調査した時点では、サテライトの設置場所が決まっている小中学校(指定避難所)は、全体の3割に満たない現状にあり、避難所運営組織への「世田谷方式」の理解を深め、サテライト場所の確定を進めるように区(まちづくりセンター)や避難所運営組織に協力して取り組む。
- ⑤ 水害での活動を通して見えてきた課題の解決、災害ボランティア活動や地域共助活動についての先駆的検討・研究を行い、地域の復興力を強化することにより「世田谷方式」の実効力を高める取り組みを進める。

## 9. せたがやチャイルドライン事業

### (1) 主な取り組みと進捗状況の報告

#### ①子どものメッセージを聴く活動

##### 1) せたがやチャイルドラインの実施

水曜日と土曜日の16時～21時に、専用回線の有料ダイヤル(03-3412-4747)とフリーダイヤル(0120-99-7777)の2回線で、ボランティア(受け手)が子どもからの電話を受けた。

また、2020年9月からオンラインチャットでも子どもの声を受けとめる活動を開始して、月2～3回程度実施をしている。

年間着信件数	合計
電話	2,035件
オンラインチャット	296件

##### 2) 受け手・支え手「全員集合交流会」の実施

受け手、支え手、運営委員の交流や情報交換を行うため「全員集合交流会」を実施した。

実施日	内容	参加者数
1月15日	<自死予防対策研修特別講演会> 「かけ手と出会い、自分と出会う」～子どもの気持ちと共にいるために～	24名

##### 3) せたがやチャイルドライン広報紙「ちゃ～ら」の発行、カードの配布

「せたがやチャイルドライン」の存在を子どもたちに伝えるため、広報紙「ちゃ～ら」とカードを区立小・中学校90校、国立私立小・中学・高校、ホットスクール、フリースクールを通して配布した。

新学期や夏休み前のタイミングに合わせて、せたがやオリジナルで作成した広報紙「ちゃ～ら」とカードを配布した。(約10万枚配布)

#### ②参加の輪を広げる活動

##### 1) せたがやチャイルドライン応援団活動

応援団寄付の呼びかけを行った。3万円以上の寄付者には手づくり品や講義集などを返礼品としてお送りして、寄付者の拡大を図った。

## 2) チャイルドラインサポーター活動の推進

電話の受け手以外にも、チャイルドラインを応援する活動として、ものづくりや値付け、発送作業等のボランティア活動の機会を提供した。

\*ものづくりボランティア 4グループ、個人5名

## ③人材養成と研究活動

### 1) 公開講座の開催

チャイルドラインの活動を広く周知するとともに、将来の受け手候補やチャイルドライン活動の新規ボランティアの開拓をねらいに、例年公開講座を開催してきた。しかし、2020年度新型コロナウイルスの影響により、公開講座の後に実施している受け手養成専修講座ができなかったため、2021年度は専修講座のみ実施した。

### 2) 受け手養成専修講座の開催

5月から第25期チャイルドライン受け手養成のための専門講座ある「受け手養成専修講座」をスタートした。初回のみzoomで行い、残りは集合形式で実施した。全10回。

### 3) 受け手継続研修の開催

受け手のスキルアップのため、月1回継続研修を実施した。4～10月は新型コロナウイルスの影響でやむを得ず中止にしたが、11月27日、1月15日、2月26日、3月27日と徐々に再開した。

### 4) インターン研修の開催

受け手研修修了後、受け手インターンとして登録された方を対象に、月1回の研修を実施した。

### 5) 支え手のための合宿研修の開催

合宿は新型コロナウイルスの影響により中止にしたが、合宿に代わる研修として「支え手研修」を3月12日と4月2日に実施した。

### 6) 受け手養成講座ワークショップテキストの作成と講座の開催

2018年度に作成した受け手養成講座の講義集に続き、受け手養成講座のワークショップの内容をテキストの形でまとめるための作業を行っている。内容がまとまった講座については、実際に使えるようになるための講座を順次実施していく予定だったが、2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

### 7) オンラインチャット報告会/ワークショップの開催

オンラインチャット実施約一年の節目として7/4にチャット報告会&ワークショップ『「子どもにどう関わったらいいんだろう…」を考える』を東京都市大学夢キャンパスで開催した。報告会は会場とオンラインのハイブリッドで実施した。「子どもの声を聴くということ～せたがやチャイルドライン・チャット事業開始から一年を振り返って」と題し、せたがやチャイルドラインの歩みやチャット事業の中での気づきなどをお伝えした。また、東京都市大学准教授の宮川哲弥さんにコメントをいただいた。後半のワークショップ「たたかない・怒らない子育て～ポジティブ・ディシプリン体験プログラム」では「NPO法人きづく」代表の森郁子さんをお招きし、子どもにどう関わったらいいのかを地域の方と学ぶ機会とした。

宮川さんには、報告会前に受け手に向けたzoomでの学習会も実施していただき、長年勤められた児童自立支援施設のお話などをうかがった。

#### ④ ネットワーキング活動

##### 1) 全国のチャイルドラインとの協働

認定NPO法人チャイルドライン支援センターや全国各地のチャイルドラインとの情報交換を図り、全国運営者会議やエリア会議、エリア研修に参加した。第1回 5月30日(オンライン)

##### 2) チャイルドライン東京ネットワークへの参画

東京都内でチャイルドラインの活動を行う各団体との定期会議へ参加した。

##### 3) 子どものメッセージを届ける活動

せたがやチャイルドラインのホームページをリニューアルし、受け手養成公開講座の申し込みやイベントの広報・情報発信を行なった。更に、協会 facebook やニュースレターを活用し、「せたがやチャイルドライン」の活動及び、情報発信を行った。

#### ⑤ 組織の運営活動

##### 1) 運営委員会の開催

運営委員会を月に1回開催し、「せたがやチャイルドライン」の運営等について協議した。今年度もオンラインで開催した。必要に応じて支え手との合同会議とした。

せたがやチャイルドライン運営委員：田野浩美(運営委員長)、窪松恵美子(副運営委員長)、星野 弥生、山本多賀子、中村智子、佐々木真由美、

##### 2) 各種会議の開催

支え手会議を月に1回オンラインで開催し、受け手へのサポートについて協議した。必要に応じて運営委員会との合同会議とした。

#### ⑥ 企画・販売活動

##### 1) チャイルドラインショップの運営

世田谷美術館、世田谷文学館、世田谷パブリックシアターにおいて、ものづくりボランティアによる手作り品を販売した。また、売り上げの一部を寄付していただいている福岡県八女市の物産品を販売するコーナーをボランティアセンターに設けている。

##### 2) 各種イベントへのバザー出店

地域イベントに出店し、「せたがやチャイルドライン」の活動の周知啓発を図るとともに、事業資金の確保に努めたが、新型コロナウイルス感染の影響で多くの事業が中止となった。

10月 雑居まつり / 2月 せたがや梅まつり

#### (2) 今後の課題

コロナ禍にあり、子どもの置かれている状況は厳しいものがあるため、電話以外の対応としてオンラインチャットも開始した。しかしながら、これら事業の継続的な運営のためには安定的な資金確保が重要であり、催し等が中止となる中で、返礼品付き寄付の拡大のためチラシの配布などに力を入れるとともに、事業運営のための人材育成も進めていきたい。

## Ⅱ. 福祉事業

2021年度、新型コロナウイルス感染症の状況改善の見通しがもてないなか、福祉事業部は感染対策を軸に置きながら事業展開を進めた。感染の波は、利用者だけではなく、利用者の家族、支援者までに及び、感染の疑いがあるたび対応に追われた。職員の優先ワクチン接種、施設巡回ワクチン、定期スクリーニング検査、感染対策巡回指導など積極的に感染対策を行い、事業を継続しつつ新規利用希望も受け入れることができるよう取り組みを行った。

結果、事業部全体延べ利用者 857 名の内、302 名の方を新規利用として受け入れることができている。この数字は、事業部全体で取り組んできた感染対策だけではなく、事業の担い手である職員の日々の努力とボランティアを含めた地域の方々の支えのもとに成り立っていると感じる。

今年度は、事業の担い手である職員が継続して働くことができるよう処遇改善にも着手した。また、コロナ禍においても地域の方々と取り組める事業の試みとして、世田谷パブリックシアターと協働で「極楽フェスタ」に参加した。この2つの取り組みは、支え手である職員や地域の方が安心してボランティア協会の事業へ力を注ぐことができるために力を入れた取り組みと言える。

今年度、力を入れた取り組みを事業展開の基盤の一つとしながら、福祉事業部が積み重ねてきた「障害のある方とのかかわりを通し、培った学び」と「障害のある方、家族、ボランティア、商店街など多くの方とのつながり」を生かし、次年度の事業につなげていく。事業の発展を目指し、新規利用希望者が増えるよう事業所の取り組みや特徴を知ってもらい情報発信を行いながら、新規利用者の受け入れ拡大ができるよう職員補充も進めていく。福祉事業部の取り組みを多くの方に伝え、事業に反映させていくためには、どのような情報をどのような方法で発信することが有効かを考えていく必要はある。当然、福祉事業部のみで考えていくのではなく、障害のある方を含めた地域の方々と対話し、共に考えていくことが大切である。次年度も続くコロナ禍において、いかに対話する機会を増やしていくことができるかが課題と感じる。

### 〔重点目標に対する取り組みについて〕

#### (1) 「支え合う地域づくり」への取り組み

様々な事業の中止が続くコロナ禍においても、地域の方々と共に取り組める活動ができないか協議を重ね、極楽フェスタ〔主催〕公益財団法人せたがや文化財団〔企画制作〕世田谷パブリックシアター〔企画内容〕参加型演劇へ参加した。当日は、障害のある方もボランティアで参加し、来場した方との交流も多く生まれ、市民とのつながりを断つことなく「共に支え合う地域づくり」への活動を継続することができた。

#### (2) 人材の確保

コロナ禍において、事業の担い手である職員が安心して働くことができるよう、ワクチン優先接種の情報提供、定期検査の実施などの感染対策を行った。また、ヘルパー職員の時給改善、福祉に従事する職員の処遇改善を目的とした制度である処遇改善加算の区分変更を行い事業部全体の賃金改善につなげ、職員が継続して働くことができる環境を整備した。

#### (3) 経営の基盤安定に向けた取り組み

事業所収入増を目指し、ケアセンターふらっとにおける補助金、ケアステーション連における事業所加算の申請を行った。また、感染症対策を徹底しながら新規利用者を積極的に受け入れることで収入へつなげ事業運営の安定を図った。

人材確保の取り組みとして処遇改善等も並行して進めることで、安定した事業運営につなげてきた。

#### (4) 学びを重ねる（職務スキルの向上）

職員一人一人が学びを重ね、支援につなげられるよう事業部全体会において事例を通した学び合いに取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を共有し、各事業の形態にあった感染防止へつながるよう取り組んできた。

## 1. ケアセンターふらっと（障害者総合支援法 生活介護事業・自立生活訓練事業・高次脳機能障害者支援促進事業）

2021年度においても、前年度同様に新型コロナウイルス対策に終始した。利用者、職員共に「今、できること」を検討し、続く「蔓延防止」の中にあっても可能な限りの活動を模索した。

特に自立生活訓練の利用者にとっては、有期限の事業のため参加に足踏みが続けば、今後の目標にも大きな影響を及ぼすことになる故、積極的な参加の姿があり、結果生活介護事業、自立生活訓練事業ともコロナ禍にあっても想定を上回る利用率となった。

一方、相談事業である「指定特定相談支援事業」「高次脳機能障害者支援促進事業」に関しては、社会情勢の混乱が続けば続くほどそのニーズは増え、可能な限りの支援を実践し、その継続が求められる1年であった。

当事業所は中途障害の方々が利用されており、かけがえのない「いのち」の時間を有効に過ごすことをあらためて認識し、立ち止まることのない柔軟な支援の実施を再確認する1年となった。

### （1）運営方針

1. 社会生活への主体的な参加
2. いのちと人権の遵守と心身の健康維持増進
3. 個性、特性を尊重した活動
4. 利用者と家族への支援
5. 地域の人たちとの交流

### （2）主な取り組みと進捗状況の報告

#### ①生活介護事業

新規利用者を10名受け入れ、新型コロナウイルス感染対策について、利用者と共に対応を考えながら日中活動も含め、実施した。また外部からの感染アドバイザーを依頼し、施設内環境やケアについて第三者の意見を取り入れながら運営した。

収益においては、予想を超える利用率の向上と、医療的ケア実施に対する補助金を受けることができ、看護師の体制を整えることができた。

#### ②自立生活訓練事業（利用期限：2年）

有期限の中、目標に基づく支援内容を利用者とともに何度も練り直し、書き換えながら支援を実施した。特に、本年度新規利用者5名の受け入れと、就労1名、就労移行支援事業への移行1名の実践を行った。

#### ③高次脳機能障害者支援促進事業

相談員3名を中心に、年間（継続相談も含め）93人の相談を受けた。

#### ④指定特定相談支援事業

担当相談員6名（兼務含む）が以下の目的に即して計画を利用者94名と共に作成した。

「障害福祉サービスを申請した障害者であって、世田谷区がサービス等利用計画案の提出を求めた者、地域相談支援を申請した障害者であって市町村がサービス等利用計画案の提出を求めた者に対し、障害者の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する」制度に基づき相談事業を継続した。

### (3) 活動状況

#### ①生活介護事業

以下の事業の柱を工夫しながら、「今できること」を展開した。特に外出活動については近隣散策から、短時間の移動で郊外への散策へとひろげた。料理や手仕事を通じ、仲間と語り合うグループの活動などを実施するなか、頭から離れない「感染症」に対する不安を少しでも軽減し、ストレスから解放される時間を可能な限り増やした。

ア. 料理活動

イ. 身体機能維持・回復の活動

(リハビリテーション・プログラム、生活支援、健康管理)

ウ. 創作活動

エ. 仲間づくり

オ. 所外活動(近隣への散策、講演活動)

カ. 個別支援プログラムの作成と実施

コロナ禍においても本年度新規利用者 10 名の受け入れをおこなった。



#### ②自立生活訓練事業

利用者の多くが「就労」を希望されることから、次のステップの就労移行支援事業所、就労支援センター、休職中の職場、リハビリテーション実施医療機関との連携をきめ細かくおこなった。併せて、単身者における暮らしのスキルに関して、安全に利用当事者がマネージメントできるようヘルパー事業者と情報交換をし、生活の細かい支援内容を共有した。

ア. 健康管理・体力の向上

イ. 高次脳機能障害におけるリハビリテーション

ウ. 仲間づくり



#### ③高次脳機能障害者支援促進事業

回復期リハ病院からの退院、一旦復職したものの職場でのトラブル、暮らしの行き詰まり等の相談も多く、結果、病院ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、行政機関等との連携が重要になり、高次脳機能障害者支援者会議にも参加した。また今年度は特に世田谷区保健センター高次脳機能障害専門相談との連携会議を1年間定期的実施し、高次脳機能障害者の相談支援体制等の関する調査研究に参加しあらためて世田谷区における「高次脳機能障害支援」についての課題を整理した。

#### ④指定特定相談事業

障害者総合支援法におけるサービス提供のプランを提案し利用者と共に作成、サービス提供事業所、あるいは医療機関との連携をまさに「繋ぎ続けた」1年となった。特に「感染」は地域で暮らす障害当事者、独居者にとっては不安が大きく、厳しい日々が続いた。毎日支援を受けているヘルパーがひとたび感染すれば、利用している障害当事者にとっては、「いのち」と直結することとなる。そんな日々を何とかサービスやインフォーマルのつながりでしのぐ、まさに「綱渡り」であった。結果、当事業所への相談依頼は多く、待機者も出ている現状となった1年でもある。

#### (4) 今後の課題

いずれの事業においても、継続した「①感染対策」は重要であり、特に利用者、家族とともに「暮らし」を柔軟に変化させながら「②今できることを常に話し合う」ことを、次年度への継続した課題と考える。加えて、個別に「目指す暮らし」を確認しながら双方ともに考えやきもちを交わし合う場、時間を、日々の「業務」に追われるなか最優先できるかが、私たちに求められる課題と認識する。

今回の新型コロナウイルス感染を契機に、「③ケアセンターふらっとにおけるBCP」を具体的に取り組み、今後のスケジュールに組み込み具体化していくことも課題とする。

## 2. ケアセンターwith (介護保険制度 地域密着型通所介護事業)

2021年度は新型コロナウイルス禍の3年目となり、ケアセンターwithの利用者も感染対策を行いながらの生活に少しずつ慣れてきた様子が見られるようになった。事業所としても、外出先や活動プログラムの変更など適宜検討を重ねるなど感染予防には十分注意を払ってきた。

この状況下の利用者減に対しては、地域ケアマネージャーを中心に、随時空き情報の提供を行うなど工夫をした。その結果、少しずつではあるが新規利用者が増えてきている。

また地域においては引き続き「困ったときの相談場所」や「気軽に立ち寄れる先」になることが、ケアセンターwithの役割と考え、今後も利用者の方々と協力しながら、地域での役割を様々な形で担えるように続けしていきたいと考える。

### (1) 運営方針

1. 介護保険制度の適用を受ける被保険者で、高次脳機能障害・若年性認知症のある方々を中心とした利用者に、主体的な社会参加を促すような活動プログラムを提供する。
2. 高次脳機能障害などについて当事者、家族、スタッフ、ボランティアが互いに学び合いながら、当事者の機能回復・維持をめざし、住み慣れた地域で長く生活できるような支援を行う。
3. 利用者の自己選択・自己決定を基本に、プログラムを進める。

### (2) 主な取り組みと進捗状況の報告

#### ① 利用人数の増数

2020年度は新型コロナウイルス感染症蔓延による利用者減が目立った。2021年度は利用者増を図るため、ケアセンターwithの利用空き情報等を新たにインターネットサイト(福祉専用事業所紹介サイト)へ掲載したり、現在関わるケアマネージャーへ空き情報を提供するなど、より多くの関係者に受け入れ可能な状況を知ってもらうよう取り組みを行った。新規利用者5名入所。

#### ② 新型コロナウイルス感染症対策

##### ア. 活動プログラムの定期的な見直し

- ・適宜職員会議で感染状況などを踏まえ、外出先の検討を行う

##### イ. 利用者・職員へのこまめな感染対策の情報提供および注意喚起

- ・職員の毎日の検温(自宅内・始業前)、利用者の毎日の検温(来所時、体調不良時)
- ・飛沫防止のためのマスク着用の声かけ・促し
- ・定時の室内換気実行と室内のサーキュレーターによる空気循環の工夫
- ・全員の適宜手洗いの声かけ・促し

#### ③ 送迎体制の変更

一部外部業者による送迎委託を行っていたが、経費節減を図るためすべて当法人車両での送迎を行うこととした。それに伴い運転業務のみにあたる臨時職員2名を雇用した。

### (3) 活動状況

#### ① 利用者個人個人のスキルを生かした活躍の場作り

『前職で培ってきた技や得意なことを活かした活動の場』を一緒に模索することにより、充実した生活や地域社会での自身の役割の発見を目指した。

例1) 元料理人は腕を振るい、おいしい昼食をみんなに提供した。

例2) 元建具屋さんには地域の福祉施設の壊れた建具を修理した。



例1)



例2)

#### ② 仲間と行う楽しいリハビリ

一人では実感や自信が伴わないリハビリも、仲間と一緒にすることで「楽しく」「積極的に」取り組めるようになった。言語聴覚士とのグループセッションでは、身近なことをみんなで話し合う談話を通して失語症の方々にとって回復につながった。



#### ③ 屋外に出て行くことでより充実する生活

外出プログラムを中心に、大勢の仲間と一緒に歩くことで気分転換を図りながら運動機能などの維持・向上を目指した。感染症の影響で地域に出でいく機会が減り、地域の人たちとのコミュニケーションを持つ機会は十分に持てなかった。



#### ④ 地域交流イベント参加を通じた高次脳機能障害への理解

2021年度は感染予防のため会場に集ってのイベントは行えなかったが、インターネットを通して自分たちの活動を紹介する機会があり、活動紹介の為の撮影に普段サポートを受けているヘルパーに当事者自ら協力をお願いするなど、主体的に参加をした。



#### (4) 今後の課題

2021年度も前年度同様、地域の方々との関わりを通して『ケアセンターwith』の役割を担うことを目標にしていたが、新型コロナウイルス感染症による影響で地域との交流が十分に行えなかった。

また、利用者減の改善も思うように進まず、目標に達しなかった。利用増を図る対策としてケアマネジャーを中心に空き情報の提供を行ってきた。その結果、年度後半では若干数ではあるが新規利用者も増えてきた。このことを足掛かりに、運営を見直し一歩踏み込んだ「ケアセンターwith」の活動の周知について検討する必要があると考える。

感染症予防対策については適宜検討を重ねながら活動を行った。今後も感染症対策も含め、ケアセンターwithにおけるBCPの準備も課題と認識している。

加えて、若年性認知症といった状況を抱える利用者も増えてきた。苦労や不安など直接当事者から学びながら、我々職員も日々研鑽を重ねていくことが重要であると考えます。

### 3. ケアステーション連（①介護保険法：訪問介護事業、②障害者総合支援法：居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援事業、③自由契約による事業）

新型コロナウイルスの感染が未だ終息とならない中、前年度に引き続き、利用者・ヘルパー共に感染症対策をしながら安心安全にサービスを行ってきた。

利用者はほぼコロナ前の人数に戻って来ており、自粛した生活に少しずつ活気を持たせたいと思っている方が多くおられることから、まだ以前の様な元通りの生活にはなっていないが、感染症予防おこないなしながら、その人らしく前向きに進もうとする方々の手助けが出来るよう支援を行った。

#### (1) 運営方針

1. 利用者の心身状況・環境等に応じて、自立した生活ができるように支援する。
2. 当事者家族・関係機関等と連携をとり、多様なニーズへの対応をおこなう。
3. 利用者のみならず、家族等への支援もおこなう。
4. チームケアを実践しながら個別支援を充実させる。
5. 職員の技術の向上に向けて多様な研修をキャリアに応じ実施。特に感染症については重点を置く。

#### (2) 主な取り組みと進捗状況の報告

##### ①登録ヘルパーの増員

ヘルパー募集に伴い、これまで未着手であった、賃金の改善を行った。

ア. 給与形態を変更し、時給を約 50 円上げるなどした。(7 月 1 日～)

イ. 処遇改善加算をⅢからⅠに変更した。(総合支援法は 7 月 1 日～、介護保険は 9 月 1 日～)

ウ. 新たに、特定処遇改善加算Ⅱを取得した。(総合支援法・介護保険 9 月 1 日～)

以上により、全ヘルパーへの待遇が改善(変更前に比べ、平均 1 割増)され、新しいヘルパーを獲得するための条件を整備した。

募集への着手はまだ本格的に取り掛かれていない状況であり、来年度は本腰を入れていきたいと思っている(21 年度の新規ヘルパーは 1 名)。

## ②新型コロナウイルスの影響による収入減の改善

新たに、特定事業所加算Ⅰを取得(総合支援法・介護保険 9 月 1 日～)したことにより収入が取得前に比べ約 20%増となった。

## (3) 活動状況

日々の生活に密着し、個人の自立を促しながらサポートを行ってきた。個人の意見を尊重しつつ、場合によってヘルパーが助言をし、利用者がよりよい生活を送ることが出来るよう努めている。

訪問介護だからこそ出来る、生活を身近から支援することで、どうしたら「その人らしく」生きていけるかを、常に念頭に置いて事業支援を進めてきた。

これまでコロナ感染を懸念し活動を自粛する方が多くいたが、社会との関わりが希薄になってしまいストレスや不安に繋がっていた。今年度は、もうそろそろ動き出したいと思われる方が増えていった。

感染症対策を充分に行い、活動範囲を限定しながらではあるが、少しずつ工夫して外出する機会を作ったりした。利用者にとって「解放された時間」が少しでも出来たことで、笑顔が増え、生活にも活気が出てきたように思う。



## (4) 今後の課題

コロナ感染により、一時的ではあるが事業の縮小を余儀なくされ、サービスが提供できなかつたり利用者を不安にさせてしまったことから、感染症対策は引き続き行っていく必要がある。

加えて事業の継続を安定させるため、様々な場面を想定し、感染症等対策をヘルパーと共有していくことが不可欠であると考えます。

21 年度に取得した加算については、それぞれに要件の達成が必要である。要件の確認を随時行い、加算取得の継続に努める。

事務作業については見直しを行っており、効率を上げるために問題点を挙げ、改善を進めていく。

人員確保は継続的な課題になっている。21 年度大幅に改善したことで、来年度は待遇改善を基に積極的な募集を行い、新規ヘルパーの獲得と技術あるケアを目指し、事業を安定向上させ多くのニーズに答えていく必要があると考えます。

## 4. 「ケア相談センター結」(介護保険 居宅介護支援事業)

2021 年度も前年度に引き続き、協会の各福祉事業と連携を図り、地域における個々のニーズに可能な限り応じながら、その人らしい生活を支援した。認知症や進行性の難病を抱えるケース、生活保護を受給し障害を抱えるケースなど関係部署との連携が必要なケース、特に今年度の特徴として個別のコロナ対応が目立った。新規の高次脳機能障害のケースではケアステーション連、ケアセンターふらっと、ケアセンターwith との連携を持ちながら対応した。

## (1) 運営方針

要介護認定を受けた利用者に対して、個々の解決すべき課題、心身の状況、おかれている環境に応じた「保健・医療・福祉の総合的かつ効果的なサービス」を提供するため、「利用者によるサービス選択」を主に、適正な居宅サービス計画及びマネージメントを展開する。

## (2) 主な取り組み

### ①適正な居宅サービス計画及びケアマネージメントの提供

要介護状態にある高齢者及び第2号被保険者に対し、一体的に介護サービスを提供するために、一連のプロセスをもとに展開を行った。

ア. インテーク イ. アセスメント ウ. ケアプラン作成 エ. ケアプランの実施・管理  
オ. モニタリング・再アセスメント カ. 終結

これらのプロセスはPDCAサイクルを基本とし、計画を立て実行し、その結果を評価した上で改善・向上を図った。

2021年度 新規居宅サービス計画作成数 13件

### ②介護保険の更新申請代行並びに介護保険の認定調査の実施

介護保険に関する更新申請の代行件数13件。介護保険の認定調査は「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取扱い」により更新認定期間が延長されるケースが多く、2021年度の認定調査は実績なし。

### ③ケアに関するあらゆる相談、関係機関との連携・コーディネート

若年性認知症・障害・成年後見・就労継続のケースなど関係各所との連携を持ちながら対応した。

関係機関等：

各保健福祉センター生活支援課（生保担当）地域支援課（障害担当）、世田谷後見センター  
各あんしんすこやかセンター、目黒区南部包括支援センター、  
医療機関MSWなど（三宿病院、関東中央病院、日本赤十字医療センター、成城リハケア病院、  
世田谷記念病院、玉川病院、東京女子医大、昭和大学大橋病院、順天堂大学病院、東京医療センターなど）

### ④高次脳機能障害者の専門窓口として、特に介護保険制度・障害者総合支援法に関する積極的な情報提供とケアプラン作成

高次脳機能障害をもつ当事者及び家族の相談窓口として、介護保険制度に関する情報提供を積極的に行った。相談業務に関しては、「ケアセンターふらっと」と連携して行った。実績は「ケアセンターふらっと」の相談業務に含まれている。

## (3) 活動状況

### ①ケアに関するあらゆる相談、関係機関との連携・コーディネート

ア. 世田谷区認知症初期集中支援事業対象者（男性）で夫婦のみの生活保護世帯のケース。

認知症専門病院並びに主治医、生活保護ワーカー、あんしんすこやかセンターと連携を取りながらプランを作成、ケアセンターWithの利用とケアステーション連のヘルパーサービスを提供する。

イ. 高次脳機能障害（記憶障害）の2号被保険者で单身独居。世田谷区成年後見センター（任意後見）で金銭管理、今後の生活設計などを行い、ケアステーション連で生活援助を行う。

### ②高次脳機能障害者の専門窓口として、特に介護保険制度・障害者総合支援法に関する積極的な情報提供とケアプラン作成

- ア. 高次脳機能障害（左被殻出血）右上下肢麻痺 失語症。2号被保険者（51歳男性）要介護4 障害区分5 身障1級。回復期リハビリ病棟から、老人保健施設を経て在宅生活をスタートする。介護保険の通所リハビリ、障害の生活訓練（言語訓練）等積極的なリハビリの提供と障害サービスの生活介護（ケアセンターふらっと）、高次脳機能障害の移動支援、また介護保険の訪問介護の利用より、在宅で自立した生活ができるよう援助を行う。
- イ. 高次脳機能障害（右被殻出血）左上下肢麻痺、左半側空間無視、注意障害。2号被保険者（60歳男性）要介護5 障害区分6 身障1級。回復期リハビリ病棟から老人保健施設を経て在宅生活スタート。日常生活動作はほぼ全介助。日中は主介護者（奥様）就労。介護保険の訪問介護、障害の居宅介護のヘルパーを中心にサービス提供。また、通所リハビリ、生活介護（ケアセンターふらっと）、高次脳機能障害の移動支援を利用することにより、意欲や体力並びに身体機能の向上が期待できる
- ウ. 高次脳機能障害（右被殻出血）左上下肢麻痺 左半側空間無視、注意障害、遂行機能障害 2号被保険者（44歳男性） 要介護2 障害区分4 身障2級。独居。回復期リハビリ病院から高次脳機能障害者支援ホーム（練馬）入所。その後、身体障害者自立体験ホーム（世田谷）を経て、現在は障害者短期入所施設で訪問リハビリと就労継続支援B型事業所を利用している。今後、住み慣れた世田谷での自立生活を目指している。

#### （4）今後の課題

居宅介護支援事業は他の在宅サービス事業所と併設しており、単独で収支の均衡を図ることは難しい。在籍する介護支援専門員の担当件数を増やすなど、中長期的には事業所単独で採算が取れるようにしていくことが課題となる。しかし、業務量の増加によるケアマネジメントの質の低下も懸念され、ICTを活用するなど、さまざまな工夫も必要となってくる。

ケアマネジメントは利用者やその家族の生活を支え、継続して支援していくことが必要であり、担当者が信頼関係を損なわず継続してケアマネジメントを提供できるようなバックアップ体制作りが課題となる。

### 5. 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや

ぽーとせたがやでは、歳を重ねた家族（8,050世帯）それぞれへの支援。これまで医療・福祉がかかわっていないが、生活のしずらさに何らかの「障害」が関係していると考えられる方への支援が増えてきている。様々な世代の障害のある方々とのかかわりのなかで、相談者が望む生活に向け、ぽーとのみで支援をすすめていくことは難しく、地域の様々な分野の関係機関と共に考え、当事者と共に歩んでいく必要が多くあった。

このような状況から、今年度は特に障害分野だけではなく高齢、若者、生活困窮支援など多くの分野の関係機関と連携を強化するための取り組み（地域包括ケアシステムの推進）に力を入れてきた。また、相談者が困った時に相談支援機関を思い浮かべてもらえるよう、関係機関だけではなく当事者や家族にもぽーとを知ってもらうための取り組みにも力を入れてきた。結果、相談実人数は2020年度222人から2021年度313人（昨年比：141%）に増えている。

#### （1）運営方針

世田谷地域（世田谷総合支所管内）における相談利用者に対し、当事者の意思及び人格を尊重し常に利用者の立場に立った適切な相談支援を行うこと、また、障害分野のみならず世田谷地域の福祉関係事業所と協力、連携し相談支援体制を構築していくことを目的に事業を展開していく。

#### （2）主な取り組みと進捗状況の報告

① 様々な分野の関係機関との連携強化に向けたぽーと主催の事業所連絡会実施

- ア. あんしんすこやかセンターと情報交換会（4 か所）
- イ. 保健福祉課、健康づくり課との連絡会（9 回開催）
- ウ. 特定相談支援事業所連絡会（11 事業所参加）
- エ. ぷらっとホームとの情報交換会
- オ. 話す会（20 事業所参加）
- カ. 地域ケア連絡会（高齢分野）との合同企画



本人の「〇〇したい」「夢」「希望」と「現実」（経済状況・障害状況など）により、希望している生活が実現されている状況などや「家族の思い」が希望していない場合など、そんなとき私たちは、本人の立場に立ちながら、どのような「かかわり」をもつことができるのでしょうか。今回は、フクトリー藍に連携している方の話を聞き、みなさんと共に考えたいと思います。

2021年 12月 17日（金）  
18:00～19:30

会場：フクトリー藍（世田谷区立事業所）  
【会場住所】 世田谷区 3-2-9 三番ビル 【会場連絡先】 03-3412-1266

- <当日の予定>
- ① 「フクトリー藍 事業所見学」 作品・作業内容などの紹介。
  - ② 「本人の夢や希望に近づけるため、どのような「かかわり」がもてるかを考える」
- <議題設定> どのような「かかわり」がもてるかを考える。参加者、事務局の思いや希望の思い。  
【お申し込みが、この「かかわり」をもつことができるのかを考えていただきます。

② 区民・関係機関にぽーとを知ってもらうための取り組み

- ア. 障害当事者・家族向け講演会
- イ. 家族会、町会、関係機関において、ぽーとの事業説明実施（7 か所）
- ウ. 福祉情報の発信サイト「Souhou」の制作
- エ. ぽーと回覧板（事業・ケースの情報）を作成し、あんしんすこやかセンターへ配布
- オ. セボネへぽーとの紹介記事掲載（2022年1月号）

(3) 活動状況

① 相談

世田谷地域（世田谷総合支所管内）における相談利用者に対し、当事者の意思及び人格を尊重して常に利用者の立場に立った相談支援を行った。

- ア. 相談実人数 : 313 人
- イ. 相談件数 : 4110 件

② 特定相談支援事業者連絡会の開催

新型コロナウイルス感染症、感染予防のため ZOOM で開催した。

参加事業所（11 事業所）	
重症心身障害児療育相談センター	相談支援センターわんぱく
ナイスケア目黒相談支援センター	ケアセンターぷらっと
コンシェルジュ藍	相談支援ウイング
合同会社からふる	ナイスケア世田谷相談センター
相談支援事業所わいわい	ソレイユ相談支援センター
相談室なびお	世田谷地域保健福祉課 障害支援

③ 世田谷地域関連機関 連絡会への参加

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面、大人数での会議は少なく、ZOOM を使った会議にも参加した。また、少ない人数で集まることができる連絡会、家族会などに参加し、密な情報交換を行うことができた。

連絡会・会議名	
保健福祉課・健康づくり課連絡会	世田谷地域ケア連絡会
手をつなぐ親の会	世田谷区自立支援協議会 運営委員会
松沢病院地域連携ネットワーク会議	権利擁護事例検討会
若林地域包括ケア会議	基幹相談センター 事例検討会
上町医療と福祉連携交流会	ピアサポート養成講座
指定特定相談支援事業者全体連絡会	世田谷地域通所事業所連絡会

#### ④ 世田谷エリア自立支援協議会の事務局

障害のある方が世田谷地域で安心して暮らせることを考える場となるよう

エリア自立支援協議会事務局として運営補助を行った。

2022年3月11日にZOOM配信にて、綿祐二氏（日本福祉大学教授）講演会「障害のある方が歳を重ねたとき、今利用しているサービスはどうなるの？」の開催。障害、高齢分野の支援者向け、障害当事者、その家族向けそれぞれに開催し合計で100名が参加者があった。

また、コロナ禍における有効な情報発信の手段としてホームページ「Souhou」を制作した。次年度も継続して作成に取り組んでいく。

<URL><https://sou-hou.com/>

#### (4) 今後の課題

今年度は相談実人数が313人、相談件数が4,110件と事業開始10年間で一番多い相談数となった。相談にこられる方の年代も10～70代と幅広く、希望する生活を阻害する要因や障害も様々であった。当然、相談にこられる方一人一人の希望も異なってくる。

年々、相談者の年代や障害種別の幅が広がるなかで、ぼーとのみで支援をすすめていくことはできないことを強く感じている。相談の場だけではなく、関係機関との連絡会、家族会、エリア協議会において様々な立場の方々の声を聞きながら、多角的な視点で地域の方々と共に考えていけるよう取り組みを行っていく必要があると考える。

地域のなかで、お互いを分かり合い、共に考える仲間を作るために、聞きとった声やぼーとの取り組みを情報発信していくことは必要である。誰にとっても分かりやすい形で情報発信することで、相談者が困っていること、地域のなかで足りない資源をどう補えるかのヒントが生まれてくる。今年度は着手できていない、この情報発信の取り組みを、次年度どのように取り組んでいくかは大きな課題である。

### 6. 新規事業プロジェクト

2020年度に設立した「パートナーセンター」として、制度の狭間にある若年認知症当事者および障害当事者と区民がパートナーとして共に社会活動に参加することを目指した。

#### (1) 運営方針

これまでの認知症や障害当事者を健常者である区民が支えるという関係性ではなく、双方向に互いの力をわかちあい、当事者がパートナーと共に社会参加のハードルを越えて活動することを目的としている。

#### (2) 主な取り組みと進捗状況の報告

##### ①事務局会議の定期開催と情報発信

2021年度はコロナ禍の影響を勘案しながら事務局会議を不定期に開催し、近況報告や活動内容の検討を行った。対面とオンラインで開催し、当日の内容をまとめた議事録を「パートナーセンターレポート」としてまとめ、これまで活動に参加した人たちに送付した。限られた活動状況であったが、改めて、人同士が顔を合わせて語り合うことの大切さを実感し、繋がり続けることの意味を再認識した。

##### ① 当事者発案のイベントの開催

11月には、前回と同様に「彩星の会」の森氏のサポートを受け、高尾山登山企画を検討して実施した。

#### (3) 活動状況

日時	活動内容	参加人数	備 考
7月21日	事務局会議	9名	参加者のうち2名はZoom参加
9月29日	事務局会議	7名	高尾山登山企画の検討
11月10日	事務局会議	7名	〃
11月17日	高尾山登山	22名	参加者のうち6名は障害当事者
1月5日	事務局会議	9名	参加者のうち2名はZoom参加



#### (4) 今後の課題

コロナ禍においても、障害当事者とパートナーそれぞれの暮らしがある。リハビリに取り組みことやスポーツ活動への参加、家族の成長など、当事者とパートナーが直接に顔を合わせて語り合うことで、お互いに地域で暮らしていることの実感をえることができ、同時に新たな発見も生まれる。

こうした顔と顔を合わせる機会と場の創設が必要と考え、次年度はコロナ禍の影響を勘案しながら、さらに活動機会を増やしていく。そして、新たな居場所を創ることで、いつでも当事者とパートナーが語り合えるようになると考える。

\*福祉事業部の実績データについては以降に記載

(1) 利用者の状況

①登録利用者数

部門	事業所	事業名				計
		生活介護	自立訓練			
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			72
		59	13			
	With	地域密着型通所				47
		47				
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約	184
		27	50	83	24	
相談	結	居宅介護支援				54
		54				
	ぽーと	地域相談				313
		313				
ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談			187	
	94	93				
合計登録者数					857	

②性別

部門	事業所	事業名								計
		生活介護		自立訓練						
通所	ふらっと	男性	女性	男性	女性					72
		34	25	9	4					
	With	地域密着型通所								47
		男性	女性							
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約					184
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
		11	16	29	21	47	36	9	15	
相談	結	居宅介護支援								54
		男性	女性							
	ぽーと	地域相談								313
		男性	女性	不明						
	ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談							187
		男性	女性	男性	女性					
		60	34	65	28					
合計数					男性	506	女性	339		

③年代別

部門	事業所	事業名																計
通所	ふらっと	生活介護				自立訓練												72
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上									
		18	41			6	7											
	With	地域密着型通所																47
10代		20～40代	50～60代	70代以上														
訪問	連	介護保険				総合支援法				移動支援				自由契約				184
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	
		3	17	7		26	24			31	51	1		4	12	8		
相談	結	居宅介護支援																54
		10代	20～40代	50～60代	70代以上													
		1	28	25														
	ぼーと	地域相談																313
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	不明												
			13	129	115	20	36											
ふらっと	特定相談支援				高次脳専門相談												176	
	10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上										
		42	52		2	38	41	1										
合計数		10代		15		20～40代		298		50～60代		410		70代以上		87		

④新規利用開始者数

部門	事業所	事業名				計				
通所	ふらっと	生活介護		自立訓練		15				
		10		5						
With	地域密着型通所				5					
	5									
訪問	連	介護保険		総合支援法		移動支援		自由契約		12
		1		3		7		1		
相談	結	居宅介護支援								13
		13								
	ぼーと	地域相談								212
		212								
ふらっと	特定相談支援		高次脳専門相談						45	
	12		33							
合計新規利用開始者数										302

⑤退所・契約終了者数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			8
		3	5			
	With	地域密着型通所				2
2						
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約	11
		3	4	3	1	
相談	結	居宅介護支援				6
		6				
	ぽーと	地域相談				0
		0				
	ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談			8
8		0				
合計退所・契約終了者数					35	

⑥利用率

部門	事業所	事業名			
通所	ふらっと	生活介護 (20名)	自立訓練 (6名)		
		86.5%	93.2%		
	With	地域密着型通所 (18名)			
		66.0%			

※ ( ) 内の数字は、1日当たりの利用定員数

⑦送迎

部門	事業所	事業名		
通所	ふらっと	生活介護		
		委託送迎 台数	自主送迎 台数	回数
		3	3	8092
	With	地域密着型通所		
		委託送迎 台数	自主送迎 台数	回数
		0	3	3664

→延べ人数です

(2) ボランティア・実習生の状況

①ボランティア人数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護		自立訓練		19
		16	3			
	With	地域密着型通所				38
38						
	ぼーと	地域相談				10
		10	← ぼーとの相談者がボランティアとして参加した人数			
合計ボランティア延べ人数					67	

②実習生数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護		自立訓練		21
		21	0			
	With	地域密着型通所				0
0						
訪問	連	事業全体				0
		0				
相談	ぼーと	地域相談				0
		0				
合計実習生延べ人数					21	

(3) 職員体制 ※兼務者を含む人数

部門	事業所	職種														計	
通所	ふらっと	管理者		サービス管理責任者		支援員		相談員		看護師		専門職		事務		23	
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時		
	1	3	3	6	1	1	1	6	1								
	With	管理者		サービス管理責任者		支援員		相談員		看護師		専門職		事務		11	
正規		臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
1		3	2	3		1		1		1		0					
訪問	連	管理者		サービス提供責任者		登録ヘルパー		相談員		看護師		専門職		事務		29	
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時				
	1		3			24							1				
相談	結	管理者				支援員		相談員		看護師		専門職		事務		4	
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時				
	1		2	1													
	ぼーと	管理者		相談員		事務員										10	
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時										
	1		2	6		1											
ふらっと 特定相談	管理者		相談員		事務員				ふらっと 高次脳相談		管理者		相談員		事務員		11
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
1		1	4					1	1	1	2						
合計数															88		

(4) 職員研修

部門	事業所	研修名	主催団体	参加人数	計
通所	ふらっと	失語症者への就労支援と就労まで	リハス大塚	1	16
		障害者支援施設への感染症対策	公益社団法人東京都看護協会 危機管理部	1	
		令和3年度第1回高次脳機能障害者相談 支援研修会	東京都心身障害者福祉セン ター	2	
		第44回てんかん基礎講座	公益社団法人日本てんかん協 会	1	
		障害者施設職員職層研修（新任職員） 事例検討を通して、実践向上を図りま せんか	世田谷区福祉人材育成・研修 センター	1	
		障害者施設職員支援力向上研修 「虐待防止と権利擁護」～本人中心の 支援に向けて～	世田谷区福祉人材育成・研修 センター	1	
		第54回日本作業療法学会	一般社団法人日本作業療法士 協会	2	
		高齢・障害支援向上Sofuku講座 「移乗介助とおむつの基礎」	世田谷区福祉人材育成・研修 センター	1	
		障害児・者支援施設における新型コロナ ウイルス感染症への対応に関する研修	世田谷区福祉人材育成・研修 センター	1	
		第48回国際福祉機器展（リアル展）	全国社会福祉協議会、保健福 祉広報協会	1	
		令和2年度宮城県認知症初期自立支援相 談研修	宮城県(医療法人社団清山 会)	1	
		区中央部高次脳機能障害合同研修会	区中央部高次脳機能障害支援 普及事業 東京慈恵会医科大学リハビリテ ーションセンター	1	
		所内研修 シーティング講座 「実際の利用者相談から学ぶ」	社会福祉法人世田谷ボランテ ア協会 ケアセンターふらっと	2	
		With	With	認知症ケア研修 認知症の理解	
高齢者虐待防止研修	世田谷区認知症在宅生活サ ポートセンター			1	
認知症になってからも希望の持てる社 会～暮らしやすい地域をともに考える ～	東京都福祉保健財団			1	
訪問	連	【全体研修】 認知症ケア	ヘルパー向け自主研修	27	212
		【全体研修】 プライバシーの保護	ヘルパー向け自主研修	27	
		【全体研修】 接遇	ヘルパー向け自主研修	27	
		【全体研修】 倫理及び法令順守	ヘルパー向け自主研修	27	
		【全体研修】 事故再発防止	ヘルパー向け自主研修	27	
		【全体研修】 緊急時の対応	ヘルパー向け自主研修	27	
		【全体研修】 感染症・食中毒の予防	ヘルパー向け自主研修	27	
		皮膚トラブル	ヘルパー向け自主研修	8	
		高齢者の薬&生活への影響-抗菌薬	ヘルパー向け自主研修	7	

	介護術	ヘルパー向け自主研修	5	
	高次脳機能障害者ガイドヘルパー	世田谷区保健センター	1	
	職員の定着を図る仕組みづくり	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	
	介護報酬改定後の疑問や新型コロナウイルス、ワクチン接種のお困りごとに答えます	世田谷区介護サービスネットワーク	1	
結	世田谷区ケアマネージャー研修 専門性向上 (Web研修) 「スーパービジョン」	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	5
	世田谷区ケアマネージャー研修 専門性向上 (リーダー) (Web研修) 「その根拠は？」		1	
	世田谷区ケアマネージャー研修 専門性向上 (リーダー) (Web研修) 「ケアマネージャーに必要なコンプライアンス」		1	
	障害福祉の理解研修 「高齢障害者への支援を学ぶ」 (Web研修)		1	
	高次脳機能障害者支援力向上研修 (基礎) (Web研修) 「高次脳機能障害の基礎的理解と支援」		1	
相談	令和3年度アウトリーチ研修	東京都立中部総合精神保健福祉センター	1	11
	令和3年度相談支援スキルアップ研修 (全5回)	世田谷区基幹相談支援センター	1	
	令和3年度苦情・相談対応研修	世田谷区	1	
	令和3年度ぼーと初任職員研修	世田谷区障害保健福祉課	1	
	精神科病院からの地域移行	世田谷区基幹相談支援センター	1	
	東京都相談支援従事者専門コース別研修	東京都	1	
	ぼーと おとなの発達障害 ～本人・家族・社会～ それぞれのできること	世田谷総合支所保健福祉センター健康づくり課	1	
	成年後見セミナー ～基礎から知る法定後見制度～	世田谷区社会福祉協議会	1	
	東京都相談支援従事者現任研修	東京都心身障害者福祉センター	1	
	社会福祉制度の狭間に埋もれる人々にソーシャルワーク専門職が果たす役割	ソーシャルワーク研究所	1	
心の病気は体の病気とどこが違うのか～統合失調症を例に脳と心を考える～	世田谷区保健センター	1		
合計研修参加数			247	

## IV. 組織推進事業

2021年度は、役員、評議員の一斉改選の対応や協会設立40周年という節目の年度となったが式典等の記念事業は新型コロナウイルス感染が拡大していることから自粛し、ホームページに特集ページを組み、情報誌にてアピールすることに留めた。協会事業の多くが地域を核とした事業展開となるゆえ、人との直接的なつながりを持つことに制約がかかる状況が長期化し、職員自身も事業の在り方で消耗することが多く、メンタル不調となる職員や、本来業務を進めることができずにストレスがたまる状況が生まれている。ここ数年、職員が安心してやりがいの持てる職場環境の整備を重点課題としており、労務面での環境整備を進め、働きやすい環境整備に努めた。

協会の事業指針となる中期計画については、具体的な実施計画が新型コロナの影響で、予定を立てた計画遂行が厳しい状況となっている。合わせて財源の安定化についても、地域で協会の事業を実施していくことが難しいため周知する機会も減少し十分な成果を得ることができなかった。

感染症の対応については一定程度どのように対応することが必要なのか等の感染リスク対策が取れてきているため、今後に向けてどのようにしていけば事業推進できるのかを検討し、工夫を凝らしながら実施していく。

### [重点目標に対する取り組み]

#### (1) コンプライアンスの展開

コンプライアンス体制が維持継続していけるよう、具体的にコンプライアンスについての理解を促す研修会を開催し、未受講の職員についても当日の記録の視聴をすすめ、なぜコンプライアンス運営が求められるのか等の職員への周知を図った。

#### (2) 中期計画の周知

中期計画の目標を達成するための行動計画を周知し、多くの賛同が得られるよう多様な広報媒体にてアピールするとしていたが、予想以上に新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、具体的な事業展開をするめることができなかった。

#### (3) やりがいのもてる働く環境の整備

職員が組織人としての自覚を持ち、それぞれの階層で職員教育を図りことで、安心して業務に集中できるよう働き方関連法案等の対応を行い、より働きやすい職場環境の整備を図るため準備を進めた。

#### (4) 自主財源の確保と運営の安定

安定した自主財源確保に向けて情報収集を行うと共に、事業の公益性を周知し事業活動とリンクした寄附の拡大。自動販売機の増設など有益な財源確保に向けた取り組みを進めていく目標を掲げていたがコロナ禍で21年度については具体的な対策を進めることができなかった。

### 1. 組織運営

理事会、評議員会、常務理事会等を開催し、円滑な法人運営に努めた。今年度、第1回にあたる6月の理事会及び評議員会、続く第2回の理事会を新型コロナウイルス感染症予防の観点から、国や区からの指針に基づき、決議の省略とし、書面で審議内容を確認いただき同意を得るかたちの実施となった。今年度は理事、監事、評議員の一斉改選となっており、書面で意思確認を行いながら適正に実施した。

11月に実施の理事会、評議員会については、以前コロナ禍にありつつも、感染の拡大が終息傾向となり、基本感染対策を行った上で、通常どおりの参集にて主に事業の進捗状況を中間報告として実施した。

3月に実施の理事会、評議員会では、次年度の事業計画・予算の審議を参集にて実施したが、希望により一部テレビ会議（リモート対応）も導入し、円滑な会議運営が行えるよう専用資機材も導入した。またキャリアパス導入に伴う新たな評価基準を追加するための規程類変更を行った。

### (1) 理事会

回数	開催日	議決事項
第1回	6/11 決議の省略	① 2020年度事業報告案・決算案の承認 ② 任期満了に伴う次期役員候補者の決定について ③ 役員等賠償責任保険契約について ④ 役員等の職務に関する内部規程の一部変更について ⑤ 職員就業規則の一部変更について ⑥ 職員給与規程細目の一部変更について ⑦ 定時評議員会の決議の省略での招集事項の決定
第2回	6/30 決議の省略	① 理事長の選定 ② 登録ホームヘルパー就業規則の一部変更 ③ 登録ホームヘルパー賃金規程の一部 ④ 評議員選任・解任委員の選任
第3回	8/10 決議の省略	① 常務理事の選定
第4回	11/19	① 社会福祉法人世田谷ボランティア協会定款の一部変更について ② 2021年度第1次補正予算について ③ 2021年度第2回評議員会の招集議案の決定について
第5回	3/8	① 2021年度第2次補正予算案について ② 2022年度事業計画案および予算案について ③ 職員就業規則の一部変更について ④ 職員給与規程の一部変更について ⑤ 職員給与規程細目の一部変更について ⑥ 再雇用職員給与規程の一部変更について ⑦ 臨時職員就業規則の一部変更について ⑧ 登録ホームヘルパー賃金規程の一部変更について ⑨ 新規採用職員の給料格付の適用基準の一部変更について ⑩ 第3回評議員会の招集事項の決定について

### (2) 評議員会

回数	開催日	議決事項
定時 (第1回)	6/26 決議の省略	① 2020年度事業報告・決算の承認 ② 役員（理事・監事）の任期満了に伴うの次期役員を選任
第2回	11/26	① 社会福祉法人世田谷ボランティア協会定款の一部変更について ② 2021年度第1次補正予算について

第3回	3/24	① 2021年第2次補正予算案について ② 2022年度事業計画案及び事業予算案について
-----	------	---

### (3) 常任理事会

法人の日常的な業務について審議するため、理事長、副理事長、常務理事で構成し、事務局からは事務局長、各部長等が出席して、感染症対策を十分にしたうえで月に1回定期的に開催した。

### (4) 評議員選任解任委員会の開催

評議員の選任については理事会で行うのではなく、理事会で評議員候補を推薦し推薦理由等をつけて、監事1名、事務局員2名、外部の地域活動者や学識経験者2名にて構成される委員により選任を行う委員会を開催し評議員の選任をおこなった。実施日 6月17日

### (5) 衛生委員会

#### ①衛生委員会の開催

産業医の指導のもと、労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康を確保するため、定期的に委員会を開催した。また産業医による職場巡視も計画的に実施した。  
(委員長：統括管理補助者1名、委員：産業医1名、衛生管理者1名、衛生経験者3名 計6名)

#### ②職場巡視の実施

各拠点ごとに産業医が直接職場を訪問し、各拠点の職場環境や確認や職員から直接話を聞き取り、各職場の労働環境の改善や労働衛生環境の点検を行った。

巡視＝4月：1拠点（砧ボランティア・ビューロー準備室）

6月：4拠点（with、相談支援センター、連、結）実施

10月：1拠点（玉川ボランティアビューロー）

12月：2拠点（世田谷ボランティアセンター及びケアセンターふらっと）

2月：2拠点（梅丘ボランティアビューロー及び代田ボランティアビューロー）

#### ③健康診断の実施

職員の健康維持管理のため、雇用保険の対象となる全職員を対象に健康診断を実施した女性職員の多い職場で、オプション健診としていた35歳以上で発症リスクが高くなる婦人科系の癌健診を無料化し受診を進めた。健診結果は産業医に報告し、必要に応じて個々に指導箋を渡した。

実施時期：10月～3月 対象人数：67名

#### ④ストレスチェックの実施

職員のセルフケア対策として心の状態を知っていただく目的でストレスチェックを実施した。

実施時期：12月1日～1月15日 実施方法：WEBとマークシート方式の併用

対象者：84名

#### ⑤消防訓練の実施

火災や地震などのいざという時に備えて、四半期ごとに1回のパーム下馬（複合施設）の各拠点（センター、ふらっと、下馬福祉工房）と合同で消防訓練を実施している。訓練内容は初期消火、通報、避難誘導等の訓練と想定（火災や地震）を組み合わせ実施している。

実施：6月15日＝火災総合訓練、

8月17日＝地震対応のシェイクアウト訓練

11月16日＝地震総合訓練

2月22日＝火災総合訓練

## (5) コンプライアンス委員会の開催

重点目標に位置づけているコンプライアンスに関わる課題が生じた場合に、理事長の諮問を受けて委員会を開催する。

(委員長：1名(参加)、委員：外部委員2名、理事1名、産業医1名、監事1名、評議員1名、各部長2名 計9名)

## 2. 事務局運営

### (1) ボランティアグループ・福祉団体等への後援

本年はコロナ禍のため、例年実施されている催し自体が少なくなっており、今年度12月までで実施の名義使用許可申請は以下のとおりとなった。

実施日	事業名	主催
7/3	災害ボランティア講座 ～チェーンソー等の使用方法を学ぶ～	復興ボランティアタスクフォース

### (2) 事務機器の整備と事務効率の向上

これまでも積極的に固定費の見直しをすすめ、コスト削減に努めてきた。今年度も事務機器においてはリース満了に合わせて、機能を高めつつコストの削減に努めた。

### (3) 寄附金の拡大取り組み

寄附金については、5万円以上の寄附について希望により感謝状の進呈を行うことや、寄附控除でメリットが大きい税額控除について周知を進めた。

### (4) 職員・スタッフ研修の充実

内部研修の実施（インターネットを活用した職員研修オンデマンドDVDの運用）

職位職制やコンプライアンスやハラスメントに関して、具体的なエピソード等を事例にしたDVD教材を活用し、適宜、該当職員に周知し視聴研修を実施した。

特に、新規採用の職員に対しては、新人職員研修として、心構え（報告・連絡・相談）の研修やコンプライアンス研修の視聴を実施した。

中堅職員については、危機管理対策や業務改善などの意思づけを中心とした研修を実施。

管理職についても、管理者として求められるコーチングスキルや人材教育等、研修案内を行い適宜視聴を促した。

インターネットを活用することでいつでも視聴できるが、一方で視聴しただけで流れてしまい成果につながらないことや、次期を逸してしまうケースも見受けられるため、いつまでに視聴し研修での気づき等の成果も確認できるよう、職員個々の年次目標計画に盛り込むと共に、適宜、追加で必要な研修案内等を行いながら、視聴（研修）が実施できるよう研修カリキュラムを組んで活用していく。

今年度の研修カリキュラム \*年間で各自受講科目・時期を設定し研修を進める

職層 分野	新人～ 3年未満	3年以上 ～中堅	主任以上 ～指導・管理職
業務スキル	報連相の基礎知識	成果がかわるPDCA	コーチングに学ぶ人材育成

業務マインド	社会人のマナー等	実力養成P 組織変革の考え方等	管理職の役割と業務 管理職としての行動等
職員指導		新人職員の育て方・伸ばし方	部下の実力を高めるOJT
コンプライアンス理解	行動・発言のコンプライアンス違反事例から学ぶ等	コンプライアンス違反の事例研修	・危機管理対応 ・コンプライアンスの必要性等
ハラスメント	・意識改革 ・社会人としての正しい考え方等	・危機管理対応 ・ハラスメント理解と防止対策	上司のハラスメント事例から学ぶ
情報セキュリティ	・社会人としての正しい考え方等 メール、SNSの取扱い	ソーシャルディアのリスク管理	・危機管理対応 ・情報セキュリティの対策
法令知識	法令違反の事例から学ぶ	コンプライアンス違反をなくすための方策と行動	法令違反とコンプライアンス違反の対応等
ダイバーシティ	さまざまな働き方への理解推進	求められるうつ病への理解	ケース検討 マタニティハラスメント理解
メンタルヘルス	・メンタルヘルス・マネジメント ・職場内のコミュニケーション		

## ②外部研修等への参加

役職員に外部研修への参加を奨励し、会計及び総務分野でのスキル強化に取り組んでいく。  
今年度はコロナ禍のため zoom 研修が多くなっている。

実施日	タイトル・内容	主催	参加者数
5/13	使える助成金・補助金セミナー 既存の使いやすい助成金から新設の助成金の情報や経産省関連の補助金に関する情報や基幹業務システム導入時の助成金や補助金を使う場合の費用負担のコストシミュレーションについての情報収集を行った	PCA 株式会社	1名 zoom 研修
9/15	育児・介護休業法 改正の概要 来年度（令和4年/2022年）から施行される休業法の新設や措置義務や、改正に至る背景や規程等に盛り込むべき内容について確認した	株式会社 OBC ビジネスコンサルタント	1名 zoom 研修
9/17	改正個人情報保護法の重要テーマと改正法対応の進め方 来年度（令和4年/2022年）から施行される個人情報保護法について、今回の「個人情報の保護に関する法律等の一部を改正する法律」のポイントを確認した。	株式会社東京海上日動パートナーズ	1名 zoom 研修
9/22	パワハラ“根本的原因”を解決する管職教育とは？ 来年度（令和4年/2022年）パワハラ防止法が施行されるにあたり、具体的にどのようなパワハラ対策が必要となるが、対策の一つであるパワハラ教育についても、どのようなことに課題があり、どうすすめていくことが必要なのか確認をした。	株式会社アドバンテッジ リスク マネジメント	1名 zoom 研修

10/19	「1on1の失敗学 2021」個別セッション ・中原淳氏 基調講演「1on1の失敗 202—若手社員の1on1力を高める—」 職場内のコミュニケーション手法として注目され散る1on1ミーティングの手法や効果的な取り組み方を学び、事業に生かしていくヒントとした	株式会社 PHP 研究所	1名 zoom 研修
10/19	衛生推進者養成講習 衛生管理者に次ぐ衛生推進者の認定講習として職場の衛生環境整備や衛生計画の策定等、実務を学び指定の認定講座として修了証を得た	一般社団法人 安全衛生マネジメント協会	1名
2/19	職場内研修担当者セミナー 職場内でどのような研修を計画的に実施していくことが必要なのか等について学ぶ	東京都社会福祉協議会	1名 WEB 研修
3/15	採用・人事担当者セミナー 広報力を高め、人材確保に強い組織作りをしていくことが結果として採用業務に置いて重要な視点や取り組みなる事を学ぶ		1名 WEB 研修
3/4	社会福祉法人会計決算研修 社会福祉法人の決算業務について経理処理のポイントや注意点を学ぶ		2名

### (3) 職員体制

常勤職員：組織推進部長1名、経理担当1名

非常勤職員：経理担当1名、総務担当1名

## 3. 財政運営

### (1) 自主財源拡大のとりくみ

各事業を継続的に運営していくためには、安定した財源の確保は不可欠である。基本的な法人運営費や、福祉事業の運営については行政からの支援を得つつ、各地域の特徴を生かした法人独自の取り組みを進めるためにも、以下の財源確保の諸活動を継続した。

#### ① 基本財産の保護と運用

協会が保有する1億円の基本財産は、従来と同様に、銀行の定期預金で安定的に運用した。さらに、満期になる定期については地域での活動をミッションに展開する組織として、地元信用金庫などの地域活動に協力的な金融機関へ口座を新設し、広報や募金箱設置の協力を得た。

#### ② 寄附金収入

寄附金については100万円を超える大口寄附が複数回あり、ボランティア・市民活動推進事業のチャイルドライン事業もキャンペーンを通じて定期的な寄附があった。法人の事業活動は区民からの寄附金が重要な財源となっている。また、福祉事業部においては利用者家族からの寄附が多く、税額控除の利点を生かすことをご案内しながら、更なる寄附拡大につなげた。

#### ③ バザー収入

バザー収入も、ボランティア・市民活動推進事業とチャイルドライン事業の重要な財源となっているが、2020年度は、新型コロナの関係で、バザー等を中止、自粛とした関係もあり、昨年度に続き大きな減収となった。今後は工夫を行い計画的に実施していく。

1階のチャイルドラインの無人ショップは一定の収益が見込めたが、定期的な商品管理等で煩雑になるため4月末をもってと中止とした。

#### \*バザー収入の推移

年度	2021	2020	2019	2018	2017
法人全体	70万円	48万円	388万円	542万円	506万円

#### ④ 自動販売機収入

代田ボランティアビューローは、代田東町会会館の1階に窓口があるが、駅前にある拠点として立地の利があるため、代田東町会の協力で自動販売機の設置を行っている。駅前再開発に伴い近隣にコンビニができた影響等から若干収益が落ちてはいるが、今年も安定的な収益をあげるができた。この先例を生かし販売機の設置協力の募集も募っていききたい。

##### \* 自販機売上げの推移

年度	2021	2020	2019
売上げ収益	93,990円	88,338円	113,670円

#### ⑤ 事業収入

福祉事業は、事業収入が主な財源となっている。福祉事業以外のボランティア・市民活動推進事業等においても、講座の参加費収入等、可能な限り参加者の受益者負担を求めている。

#### (2) 世田谷区の補助金

2021年度は世田谷区から、ボランティア・市民活動推進事業および法人運営のため9,979万円、ケアセンターふらっと運営のための6,310万円の補助金が交付された。また、事業費としてもボランティア・市民活動推進事業へ市民活動支援事業として150万円が交付された。

##### \* 経常経費補助金収入の推移

年度	2021	2020	2019	2018	2017
法人全体	1億6,440万円	1億5715万円	1億4264万円	1億2200万円	1億2196万円

#### 4. 今後の課題

新型コロナウイルス感染症対応については、各部とも感染の状況を見ながら進めてきているが、当初の計画通りには取り組めていない。特に、自主財源の確保については、各部事業収益の厳しい状況が続いているため、拡充を図っていききたいところである。具体的に協会の取り組みや実施している事業内容を周知することが重要で、高額寄附や定期的な寄附につながってきた。一層の支援者を獲得していく上でも、組織推進部としてはコンプライアンス体制の維持・継続は必須のもので、法人内で多様な働き方があるなか、風通しのよい職場環境の整備にも努め、引き続き職場風土として浸透していくための取り組みも併せて考えていく必要がある。

職員が常にベストなパフォーマンスが発揮できるよう業務管理の部分で一層の理解が得られるように規程の整備やキャリアパスの導入を図り、やりがいの持てる職場づくりを図っていききたい。

また、今年度は10月に協会設立40周年を迎え、当会ホームページに特設ページを開設したり、40周年のバナーを入れる等の対応をおこなった。また情報誌に特集ページを設けるこれまでの歩みを振り返った。本来なら周年事業や記念寄附のキャンペーン等。協会のこれまでの取り組みと、今後の展開のについても広く周知していく機会ではあったが、コロナ禍にあり、これら事業は自粛とした。

組織体制図

社会福祉法人 世田谷ボランティア協会

2021年度

組織運営体制図

